

「藤沢市の地球温暖化対策」に関する アンケート調査結果報告書

2025 年（令和 7 年）8 月

1 アンケート調査概要

1-1 調査目的

現在の「藤沢市地球温暖化対策実行計画」の中間見直しを実施するにあたり、温室効果ガス排出量削減目標の達成に向けて、市民・事業者の地球温暖化対策に対する意識を把握し、計画期間の後半において重点的に取り組むべき施策の参考とするため、アンケート調査を実施しました。

1-2 調査内容

調査内容は、表 1 - 1 のとおりです。

表 1 - 1 調査内容

	市民	事業者
調査対象	藤沢市に在住する満 18 歳以上の男女 3,000 人	藤沢市内の事業者 500 社
抽出法	各年代及び地区ごとの人口より、選定者数を按分することで極端な偏りが出ないように抽出	産業分類ごとの企業数より、選定事業者数を按分することで極端な偏りが出ないように抽出
調査方法	配付方法：調査票の郵送 回収方法：返信用封筒による郵送及び WEB 回答	
調査期間	令和 7 年 6 月 6 日（金）～7 月 3 日（木）	
配布数	3,000	500
回収数 (うち WEB 回答)	984 (259)	157 (33)
回収率	32.8%	31.4%
有効回答数	979 (257)	156 (33)
有効回答率	32.6%	31.2%

※締切日を 6 日以上経過して到着した回答については、回収数に含めるが有効回答数には含めない。

1-3 調査項目

表 1 - 2 調査項目

設問
問 1 回答者のパーソナルデータ（市民）/事業所の概要（事業者）
問 2 藤沢市の重要度・満足度※
問 3 省エネ対策の実施状況※
問 4 省エネ対策に取り組めない理由※
問 5 省エネ・再エネ設備の導入状況※
問 6 関心があるが導入できない理由※
問 7 藤沢市の重点対策加速化事業の認知度
問 8 都市システムや循環型社会の実施状況
問 9 藤沢市が対策していくべき事項
問 10 藤沢市の情報発信方法
問 11 意見・要望等

※前回のアンケート調査結果と比較する項目

※集計にあたっての留意点

- ・回答結果は、小数点第 2 位を四捨五入のうえ割合を示しているため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、全体の回答数に対する割合を示しているため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・各設問において、回答の記入がないもの、回答が識別できないものについては、「無回答」として扱っています。

2 アンケート調査結果（市民編）

2-1 回答者のパーソナルデータ

問1 あなたご自身のことについてお尋ねします。

図2-1 【性別】

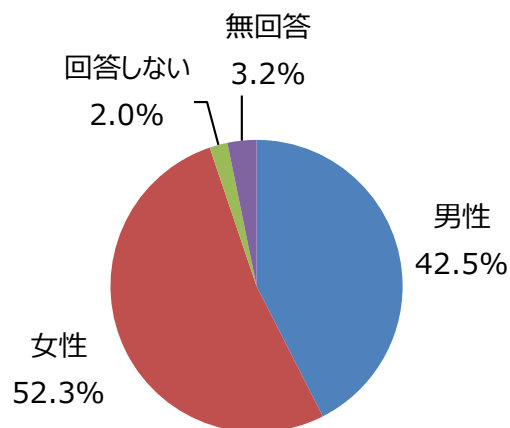


図2-2 【年代】

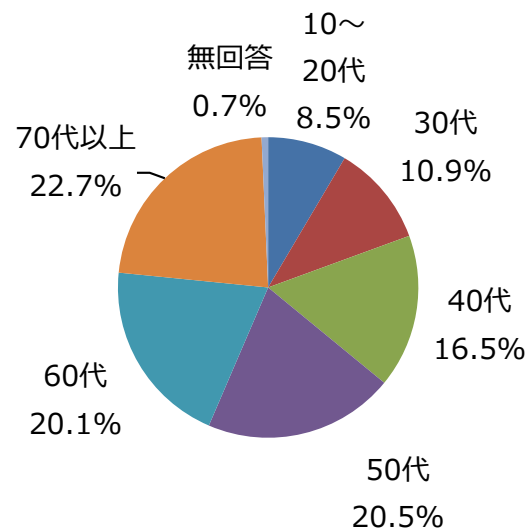


図2-3 【居住地域】

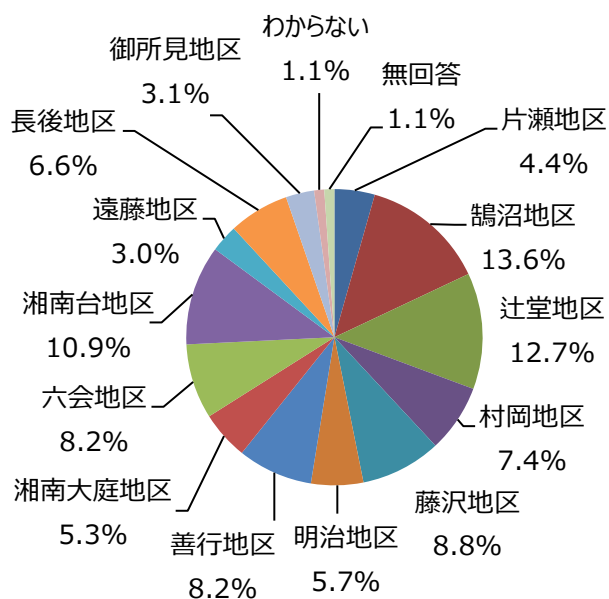


図2-4 【家族構成】

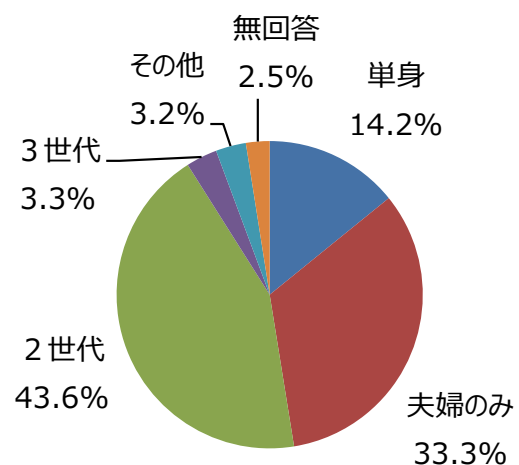


図 2 - 5 【就労状況】

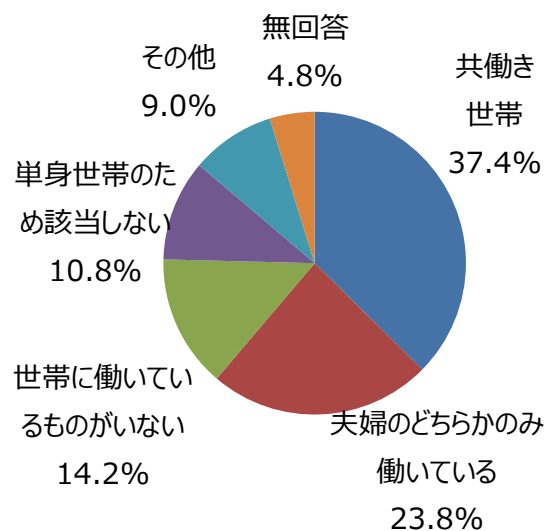


図 2 - 6 【ペットの飼育状況】

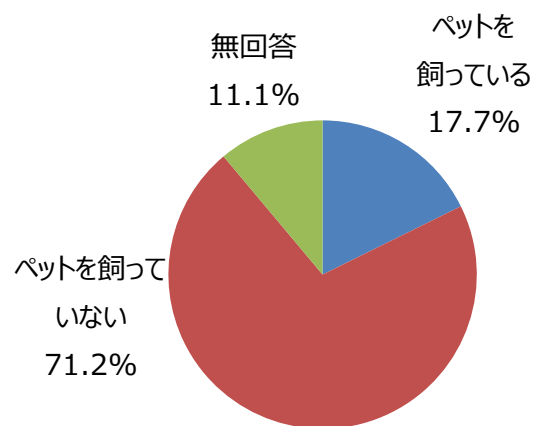


図 2 - 7 【居住形態】

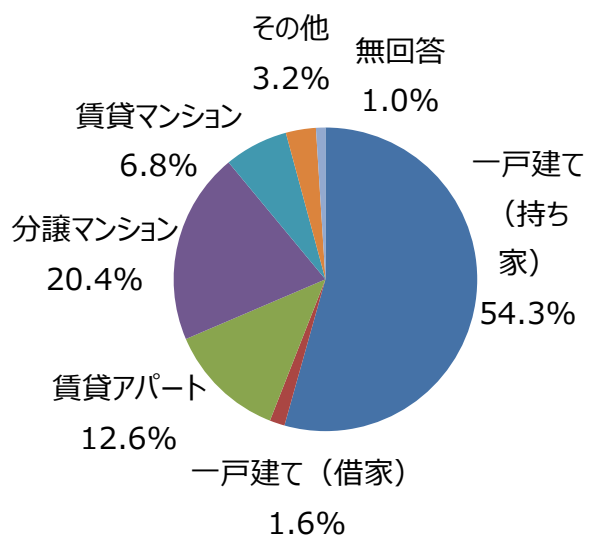
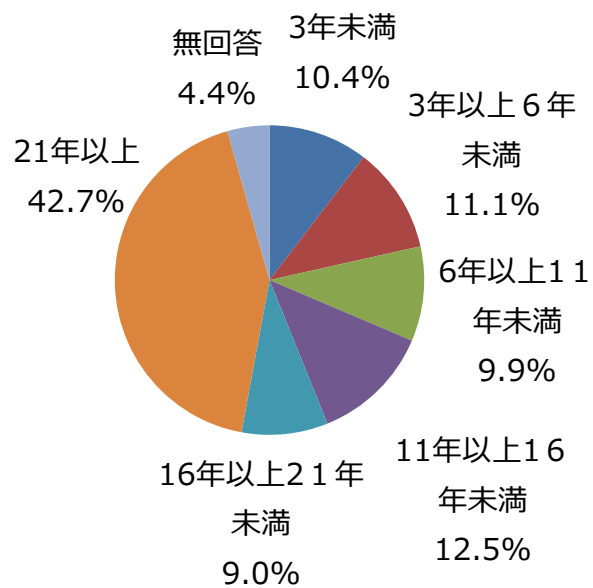


図 2 - 8 【居住年数】



2-2 市の地球温暖化対策に関する重要度・満足度

問2 藤沢市の地球温暖化対策に関する各項目について重要度・現時点の満足度についてお尋ねします。最もあてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。

図2-9 市の地球温暖化対策に関する重要度・満足度

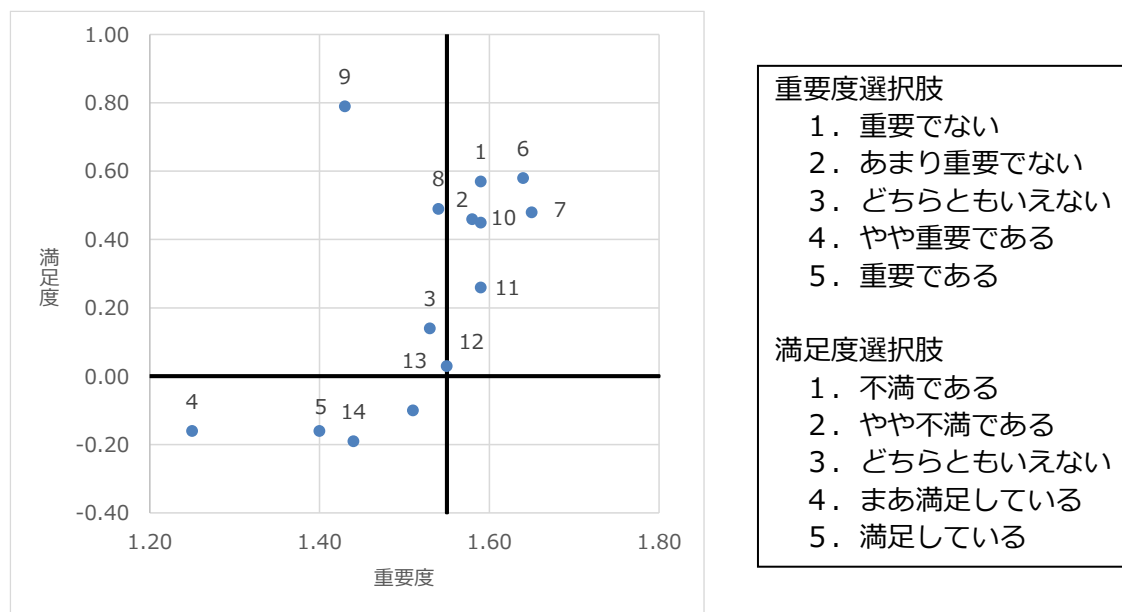


表2-1 市の地球温暖化対策に関する重要度・満足度

番号	項目	重要度	満足度
1	学校や地域、事業所などあらゆる社会の中で、環境教育・環境学習が推進され、環境を意識した行動が広がっている	1.59	0.57
2	より多くの市民・事業者が環境への関心と意識を高く持つことで、さまざまな環境保全活動と環境美化活動が展開されている	1.58	0.46
3	地球温暖化対策について、市民・事業者・行政の力を活かした地域からの行動が進められている	1.53	0.14
4	エネルギーの地産地消を見据えた太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用が行われている	1.25	-0.16
5	環境に優しい都市システムによる脱炭素社会が創造されている	1.40	-0.16
6	公園や緑地など新たに緑が創出され、潤いのある生活環境が確保されている	1.64	0.58
7	豊かな自然環境の保全に向けて、身近な緑が保全・再生されている	1.65	0.48
8	安全・安心な食を身近で確保するための地産地消が実践されている	1.54	0.49
9	エコバッグの活用や、過剰梱包の防止など、プラスチックごみの削減に向けた取組が定着している	1.43	0.79
10	廃棄物の発生抑制及び減量・資源化が推進され、循環型社会が形成されている	1.59	0.45
11	家庭における食品ロスや事業者における食品廃棄物の削減が推進されている	1.59	0.26
12	環境への負荷を低減し、未来へつなげる循環型社会が実現されている	1.55	0.03
13	市民や事業者を牽引する行政の率先的取組が推進されている	1.51	-0.10
14	地球温暖化対策の取組に民間事業者を誘導する仕組みが実現されている	1.44	-0.19

重要度：重要でない=-2、あまり重要でない=-1、どちらともいえない=0、やや重要である=+1、重要である=+2
満足度：不満である=-2、やや不満である=-1、どちらともいえない=0、まあ満足している=+1、満足している=+2として平均値を算定

【前回調査結果との比較】

・重要度

重要度は前回調査結果^{注)}と比較して、全体的に高くなっており、全ての項目で1.25以上と高い状態にあります。「豊かな自然環境の保全に向けて、身近な緑が保全・再生されている(1.65)」「公園や緑地など新たに緑が創出され、潤いのある生活環境が確保されている(1.64)」については、1.6を超え高くなっています。最も低かったのは「エネルギーの地産地消を見据えた太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用が行われている(1.25)」で、前回よりも低下しています。

・満足度

満足度は前回調査結果と比較して、全体的に高くなっており、「エコバッグの活用や、過剰梱包の防止など、プラスチックごみの削減に向けた取組が定着している」は満足度が高いです。「豊かな自然環境の保全に向けて、身近な緑が保全・再生されている(0.48)」「安全・安心な食を身近で確保するための地産地消が実践されている(0.49)」は前回満足度が高めでしたが、いずれも-0.3以上低下しています。

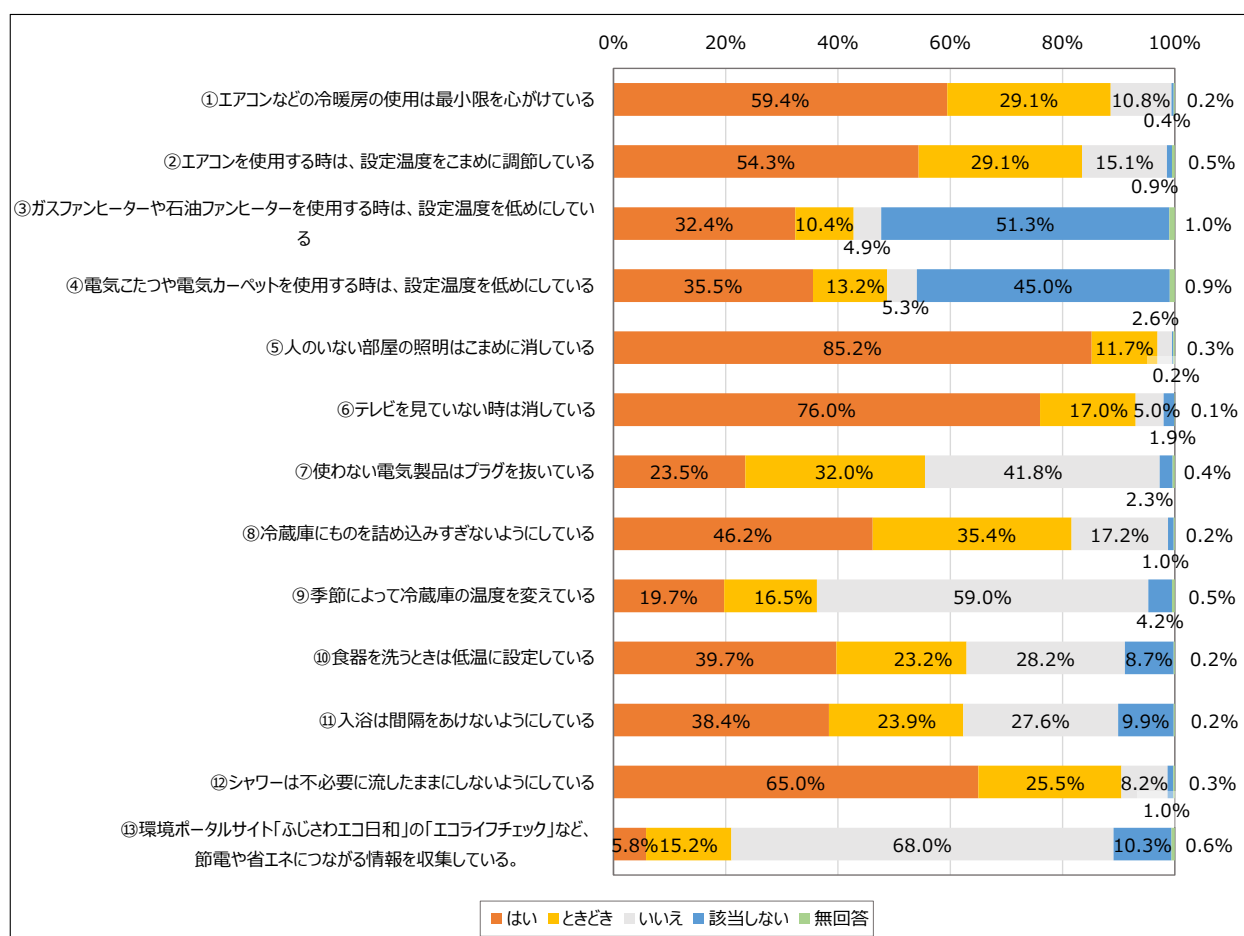
注) 前回調査時には充実希望度として確認している。

番号	項目	重要度		満足度	
		2025年度	2021年度	2025年度	2021年度
1	学校や地域、事業所などあらゆる社会の中で、環境教育・環境学習が推進され、環境を意識した行動が広がっている	1.59	1.51	0.57	0.57
2	より多くの市民・事業者が環境への関心と意識を高く持つことで、さまざまな環境保全活動と環境美化活動が展開されている	1.58	1.48	0.46	0.47
3	地球温暖化対策について、市民・事業者・行政の力を活かした地域からの行動が進められている	1.53	1.48	0.14	0.03
4	エネルギーの地産地消を見据えた太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用が行われている	1.25	1.50	-0.16	-0.16
5	環境に優しい都市システムによる脱炭素社会が創造されている	1.40	1.50	-0.16	-0.17
6	公園や緑地など新たに緑が創出され、潤いのある生活環境が確保されている	1.64	1.51	0.58	0.76
7	豊かな自然環境の保全に向けて、身近な緑が保全・再生されている	1.65	1.61	0.48	0.82
8	安全・安心な食を身近で確保するための地産地消が実践されている	1.54	1.50	0.49	0.80
9	エコバッグの活用や、過剰梱包の防止など、プラスチックごみの削減に向けた取組が定着している	1.43	1.40	0.79	0.75
10	廃棄物の発生抑制及び減量・資源化が推進され、循環型社会が形成されている	1.59	1.57	0.45	0.64
11	家庭における食品ロスや事業者における食品廃棄物の削減が推進されている	1.59	1.59	0.26	0.22
12	環境への負荷を低減し、未来へつなげる循環型社会が実現されている	1.55	1.54	0.03	-0.13
13	市民や事業者を牽引する行政の率先的取組が推進されている	1.51	1.47	-0.10	-0.23
14	地球温暖化対策の取組に民間事業者を誘導する仕組みが実現されている	1.44	1.46	-0.19	-0.23

2-3 省エネ対策の実施状況

問3 節電や省エネ対策として取り組んでいる次の各行動についてお尋ねします。
最もあてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。該当する機器を保有していない等の場合は、「該当しない」に○をつけてください。

図2-10 省エネ対策の実施状況



【前回調査結果との比較】

節電や省エネ対策の取組状況は前回調査と比較して、全体的に実施割合が低下している傾向にあります。

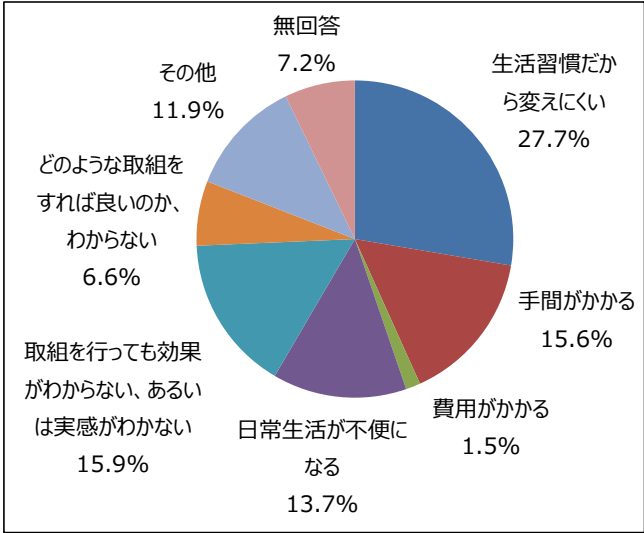
実施率が高いのは「人のいない部屋の照明はこまめに消している（97%）」「テレビを見ていない時は消している（93%）」で9割を超えていました。また「シャワーは不必要に流したままにしないようにしている（91%）」の実施率も高く、本項目は前回調査結果よりも実施率が増加しています。

番号	項目	「ときどき」または「はい」の割合	
		2025年度	2021年度
①	エアコンなどの冷暖房の使用は最小限を心がけている	89%	92%
②	エアコンを使用する時は、設定温度をこまめに調節している	83%	86%
③	ガスファンヒーターや石油ファンヒーターを使用する時は、設定温度を低めにしている	43%	50%
④	電気こたつや電気カーペットを使用する時は、設定温度を低めにしている	49%	57%
⑤	人のいない部屋の照明はこまめに消している	97%	97%
⑥	テレビを見ていない時は消している	93%	93%
⑦	使わない電気製品はプラグを抜いている	56%	59%
⑧	冷蔵庫にものを詰め込みすぎないようにしている	82%	82%
⑨	季節によって冷蔵庫の温度を変えている	36%	38%
⑩	食器を洗うときは低温に設定している	63%	68%
⑪	入浴は間隔をあけないようにしている	62%	64%
⑫	シャワーは不必要に流したままにしないようにしている	91%	90%
⑬	環境ポータルサイト「ふじさわエコ日和」の「エコライフチェック」など、節電や省エネにつながる情報を収集している。	21%	28%

※2025年度の結果は小数点以下を四捨五入している。

問4 問3で「いいえ」と回答した項目が1つ以上あった方にお尋ねします。取り組めていない理由について、最もあてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。

図 2 - 1 1 節電や省エネ対策に取り組めない理由



「その他」回答内容

内容
該当機器を使用していない
安全や快適性を優先
意識になかった・気にしていなかった・発想がなかった
環境ポータルサイトの存在を知らなかった
温度調整の方法がわからない
温度調節ができない機器だから
手間に対する効果が少ない
家族でも、温度の感じ方が違うため
エアコンを頻繁につける・消すことでより、電気料金がかかると聞いていたため
ペットのために必要
情報収集していない
家族の協力を得るのが難しい
家族で活動する時間帯が異なる など

【前回調査結果との比較】

節電や省エネ対策に取り組めていない理由で最も割合が高かったのは、前回同様「生活習慣だから変えにくい（28%）」でした。この結果は前回と比較すると、0.1%増加しています。

続いて「手間がかかる（16%）」、「取組を行っても効果がわからない、あるいは実感がわからない（16%）」が高い回答割合となり、これらの回答割合はいずれも前回より高くなっています。

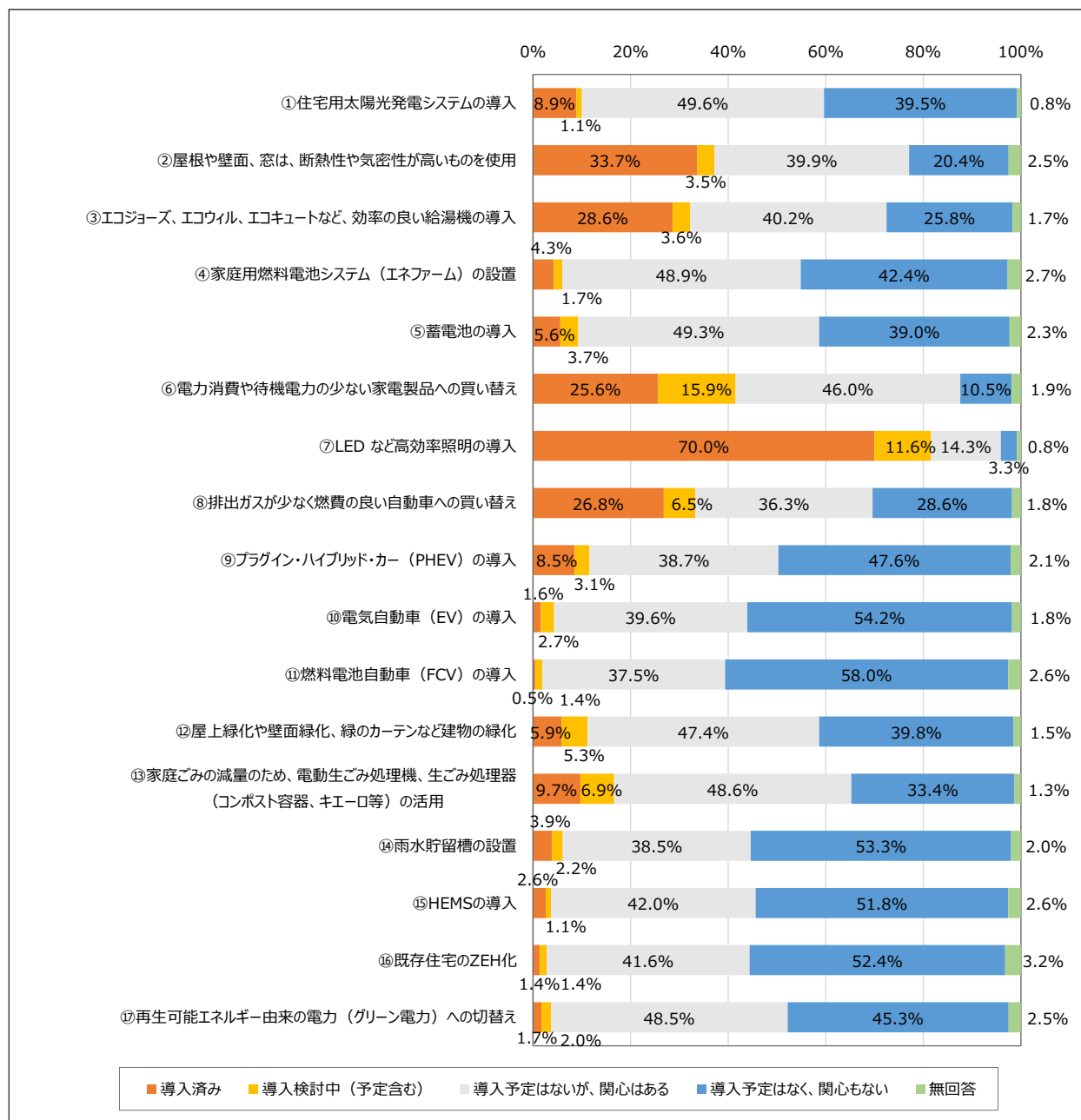
番号	項目	回答割合	
		2025年度	2021年度
1	生活習慣だから変えにくい	28%	27%
2	手間がかかる	16%	11%
3	費用がかかる	2%	1%
4	日常生活が不便になる	14%	14%
5	取組を行っても効果がわからない、あるいは実感がわからない	16%	14%
6	どのような取組をすれば良いのか、わからない	7%	11%
7	その他	12%	13%
8	無回答	7%	9%

※2025年度の結果は小数点以下を四捨五入している。

2-4 省エネ・再エネ設備の導入状況

問5 省エネ設備や再生可能エネルギーの導入状況についてお尋ねします。最もあてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。

図2-12 省エネ設備・再生可能エネルギーの導入状況



【前回調査結果との比較】

省エネ設備や再生可能エネルギーの導入状況は前回調査と比較して、全体的に増加傾向にあります。

最も導入済みの割合が高いのは「LED など高効率照明の導入（70%）」で、前回より5%高くなっています。また「エコジョーズ、エコウィル、エコキュートなど、効率の良い給湯機の導入（29%）」「電力消費や待機電力の少ない家電製品への買い替え（26%）」も前回より4%高くなりました。一方前回よりも回答割合が低下したのは、「屋上緑化や壁面緑化、緑のカーテンなど建物の緑化（6%）」でした。

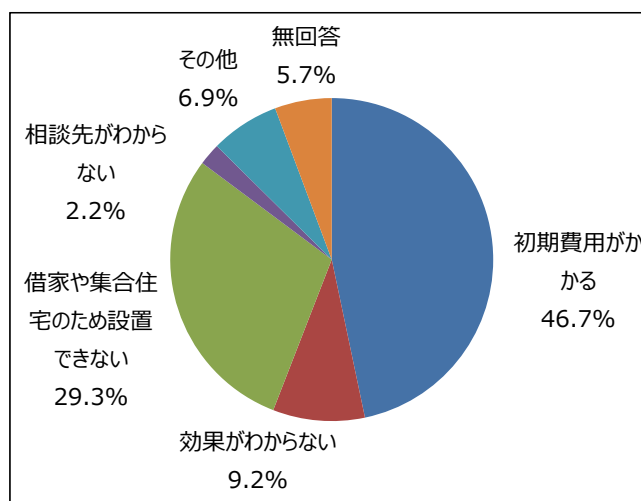
今回新たに設けた項目については、「プラグイン・ハイブリッド・カー（PHEV）の導入（9%）」「再生可能エネルギー由来の電力（グリーン電力）への切替え（2%）」の結果でした。

番号	項目	「導入済み」の割合	
		2025年度	2021年度
①	住宅用太陽光発電システムの導入	9%	6%
②	屋根や壁面、窓は、断熱性や気密性が高いものを使用	34%	33%
③	エコジョーズ、エコウィル、エコキュートなど、効率の良い給湯機の導入	29%	25%
④	家庭用燃料電池システム（エネファーム）の設置	4%	3%
⑤	蓄電池の導入	6%	3%
⑥	電力消費や待機電力の少ない家電製品への買い替え	26%	22%
⑦	LED など高効率照明の導入	70%	65%
⑧	排出ガスが少なく燃費の良い自動車への買い替え	27%	24%
⑨	プラグイン・ハイブリッド・カー（PHEV）の導入	9%	—
⑩	電気自動車（EV）の導入	2%	2%
⑪	燃料電池自動車（FCV）の導入	1%	1%
⑫	屋上緑化や壁面緑化、緑のカーテンなど建物の緑化	6%	7%
⑬	家庭ごみの減量のため、電動生ごみ処理機、生ごみ処理器（コンポスト容器、キエーロ等）の活用	10%	8%
⑭	雨水貯留槽の設置	4%	3%
⑮	HEMS の導入	3%	2%
⑯	既存住宅の ZEH 化	1%	1%
⑰	再生可能エネルギー由来の電力（グリーン電力）への切替え	2%	—

※2025年度の結果は小数点以下を四捨五入している。

問6 問5で「導入予定はないが、関心はある」と回答した項目が1つ以上あった方にお尋ねします。取り組めていない理由について、最もあてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。

図2-13 省エネ設備・再生可能エネルギー導入に取り組めない理由



「その他」回答内容

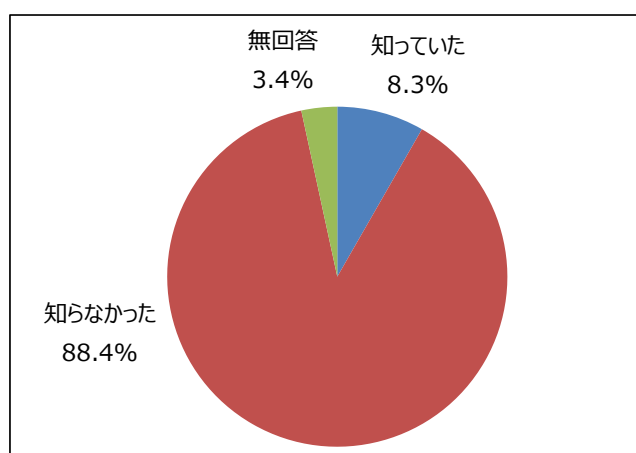
内容
生活習慣を変えられるかどうかかわからないため
業者に見てもらったら建物の構造で設置できないと言われた
公共建築でも実施されず費用対効果、有効性に確証がない、費用対効果が低い
高齢のため
料金やポイントなどが複雑すぎる
取り組んだがうまくいかなかった
エネファームなどの騒音被害の情報を聞いた
管理の大変さ、耐用年数がわからない、長期的に自分で管理できるか、コスパに不安
設備の買い替え時に対応予定
中国産の太陽光電池導入に反対
実際に調べて導入するのは手間がかかる
景観にあわない
費用が高い理由もあるがそれ以前に物価高で生活が厳しくエコ化する金銭的余力がない
ソーラーパネルや蓄電池の寿命や交換費用の問題、そしてそれらの廃棄方法にまだ問題があり、逆に環境保護では無いと考えているから。
PHEV、EV、FCVの次に期待
情報収集中
電気自動車の充電場所は少ないように思える など

2-5 市の重点対策加速化事業の認知度

問7 藤沢市が国の重点対策加速化事業に採択されたことを知っていましたか。あてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。

また、地球温暖化対策に関する設備補助をより一層市民や事業者を活用してもらうためにはどうしたらよいか、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

図2-14 市の重点対策加速化事業の認知度



「活用してもらうための意見」回答内容

※環境に関連する内容のみを抜粋し、要約した内容を記載しています。

内容
【広報に関する内容】
住宅展示場などで広報の活動をする事で知ってもらうことから始める。これから家を建てる人に選択肢を提示する。
ショッピングモールなど人が集まる場所での情報提供
藤沢駅を中心とした定期的なイベント・PRの実施
湘南ラジオで設備補助を宣伝する。
藤沢はベッドタウンでもあるのでサラリーマンの目に入るような場所へ周知の広告を出すとか。電車やバスの車内広告など、環境への意識をあまりもっていない人でも目に入るような場所
住宅メーカーや不動産屋等に周知し、新規購入者へ案内してもらう。
納税通知書など、行政からの郵送物に案内を同封して知らせる。
若い人向けには SNS の活用。高齢者向けには病院への掲示や回覧板が有効では。
FM ヨコハマ等、メディアを通して情報を流してほしい。

内容
企業では、かなり周知がなされている。地球温暖化対策に関しては、小、中、高、大学生の方が関心が高いので、大学の学園祭、サンパール広場のイベント、ビーチクリーン、学習塾等、10代が集まりやすい場所で広めていくのがよいのでは。
動画サイト等、広告を利用する。
事業者だけの説明だけでは信用しがたいので、市役所で担当者と事業者の説明会等であれば参加したい。今悪質業者の話題も多く怖いので。
家電量販店など含め積極的な広報を行う。
大型商業施設等での展示やイベントを行う。気軽に立ち寄れて、気軽に知ることができる機会を設ける。
わかりやすい説明と駅やスーパーなどの利用者が多い場所でポスターなどの案内があると気づきやすいと思う。
【情報共有に関する内容】
「カーボンニュートラルフェスティバル in 藤沢」のようなお祭りを開催して、効率の良い給湯器や PHEV/EV・FCV などの体験コーナーをつくる。（企業と連携）ポータルサイトの活用方法の実践、エコな暮らし相談会などができる場があると良いかと考える。
賃貸物件でも出来る内容があれば嬉しい。又は大家さん向けに支援があれば。
設備の改修には工務店が必要不可欠なため、相談できる先の案内を希望する。
ソーラーパネルの設置する際、自己負担金の元が取れるのは何年後かモデルケースを示してもらえたらわかりやすい。
導入事例を広報して欲しい。
重点事業分野ごとにモデル導入補助支援を図り、その成果を市民への PR に活用してはどうか。
【費用の低減に関する内容】
もっと補助を増してほしい。市だけでなく、県や国ともっと連携して補助を充実させるように動いてほしい。
自己負担率の低減（小さい子供がいる家庭での優遇措置など）
4 軒くらいで 1 つの蓄電池をシェアしてコストを下げる。
無料 or モニター化で料金がかからなければ、利用してみたい。
地球温暖化対策としての設備を設置することのメリットは理解しているが、金銭面での初期負担が大きくなかなか踏み出せない部分大きい。
【制度の整備・改善に関する内容】
新築の屋根には、ソーラーパネルを付けることを強制して補助金を付ける。
新築住宅(一戸建て、共同住宅両方)は適用義務付け
マンションで利用できる仕組みづくり
東京都の様なやり方はやめて欲しい。緑の藤沢、孫・子たちに自然と人間との共存調和を与えられる程度の省エネ対策をして欲しい。
毎年、設備補助を行い、補助金の上限枠を設けない。設置をすれば申請して、いつでも補助金を得られるようにすれば、活用は増えると思う。
設備に頼る温暖化対策ではなく、藤沢市内の家電量販店と協力を行い、古い家電(エアコンや冷蔵庫等)をエコ対応品に買い替えしやすい環境をつくることも大切であると考え
る。

内容
申請方法の簡素化、対象建物の拡充
【環境教育に関する内容】
早い段階で子どもや子育て世代への学習機会があることが望ましい。子へは、学校に(生徒)市の事業や設備について家庭科等で学ぶ機会をつくってほしい。

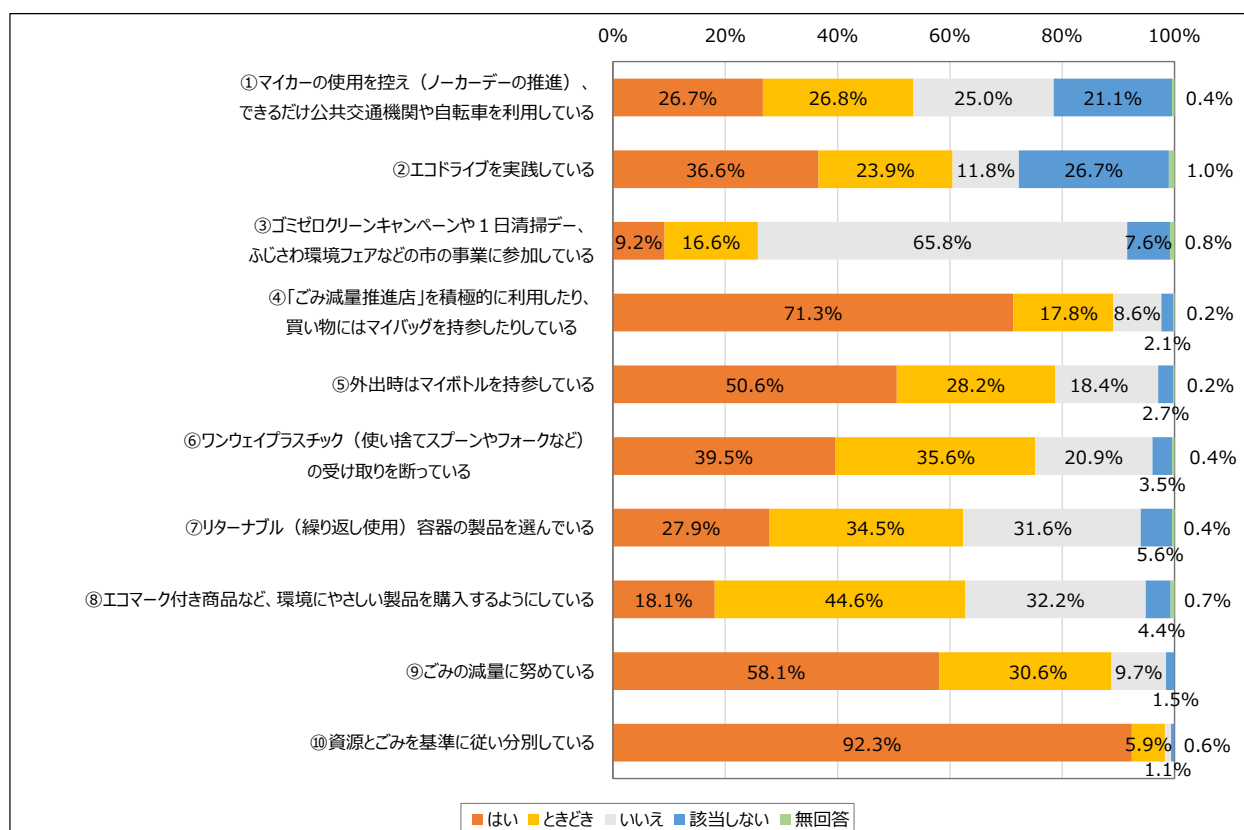
市が国の重点対策加速化事業に採択されたことを「知っていた」と回答した人は全体の8.3%で、「知らなかった」と回答した人88.4%より大幅に少ない結果となりました。市の事業について、認知が進んでいない状況となっていることが伺えます。

地球温暖化対策に関する設備補助を、より一層市民や事業者を活用してもらうための意見としては、「PR・広報の強化」「定期的な周知・イベントの開催」といった情報発信を推進するという内容が多くみられました。また「費用対効果やメリット・デメリットの説明」「導入事例の広報」「設備導入への補助」「手続きの簡素化」といった意見も寄せられており、温暖化対策の効果の可視化や費用面での支援などの要望があることがわかります。

2-6 環境にやさしい都市システム構築や循環型社会形成について

問 8 環境にやさしい都市システムの構築や循環型社会の形成につながる次の各行動についてお尋ねします。最もあてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。該当する機器を保有していない等の場合は、「該当しない」に○をつけてください。

図 2 - 1 5 環境にやさしい都市システム構築や循環型社会形成に関する実施状況



【前回調査結果との比較】

環境にやさしい都市システムの構築や循環型社会の形成に関する行動の実施状況は前回調査と比較して、全体的にやや低下しています。

今回新たに設けた、商品購入時の行動に関する項目「外出時はマイボトルを持参している」「ワンウェイプラスチック（使い捨てスプーンやフォークなど）の受け取りを断っている」「リターナブル（繰り返し使用）容器の製品を選んでいる」については、60%以上の割合で実施されていることが分かりました。

番号	項目	「ときどき」または「はい」の割合	
		2025年度	2021年度
環境にやさしい都市システムの構築に関する行動			
①	マイカーの使用を控え（ノーカーデーの推進）、できるだけ公共交通機関や自転車を利用している	54%	55%
②	エコドライブを実践している	61%	64%
循環型社会の形成に関する行動			
③	ゴミゼロクリーンキャンペーンや1日清掃デー、ふじさわ環境フェアなどの市の事業に参加している	26%	30%
④	「ごみ減量推進店」を積極的に利用したり、買い物にはマイバッグを持参したりしている	89%	93%
⑤	外出時はマイボトルを持参している	79%	－
⑥	ワンウェイプラスチック（使い捨てスプーンやフォークなど）の受け取りを断っている	75%	－
⑦	リターナブル（繰り返し使用）容器の製品を選んでいる	62%	－
⑧	エコマーク付き商品など、環境にやさしい製品を購入するようにしている	63%	66%
⑨	ごみの減量に努めている	89%	89%
⑩	資源とごみを基準に従い分別している	98%	99%

※2025年度の結果は小数点以下を四捨五入している。

2-7 市が今後、重点的に取り組むべき事項

問9 市民や事業者の温暖化対策への取組を促進するために、藤沢市が今後、重点的に取り組むべき事項についてお尋ねします。あてはまる番号を3つまで選んで○で囲んでください。

図2-16 市が今後、重点的に取り組むべき事項

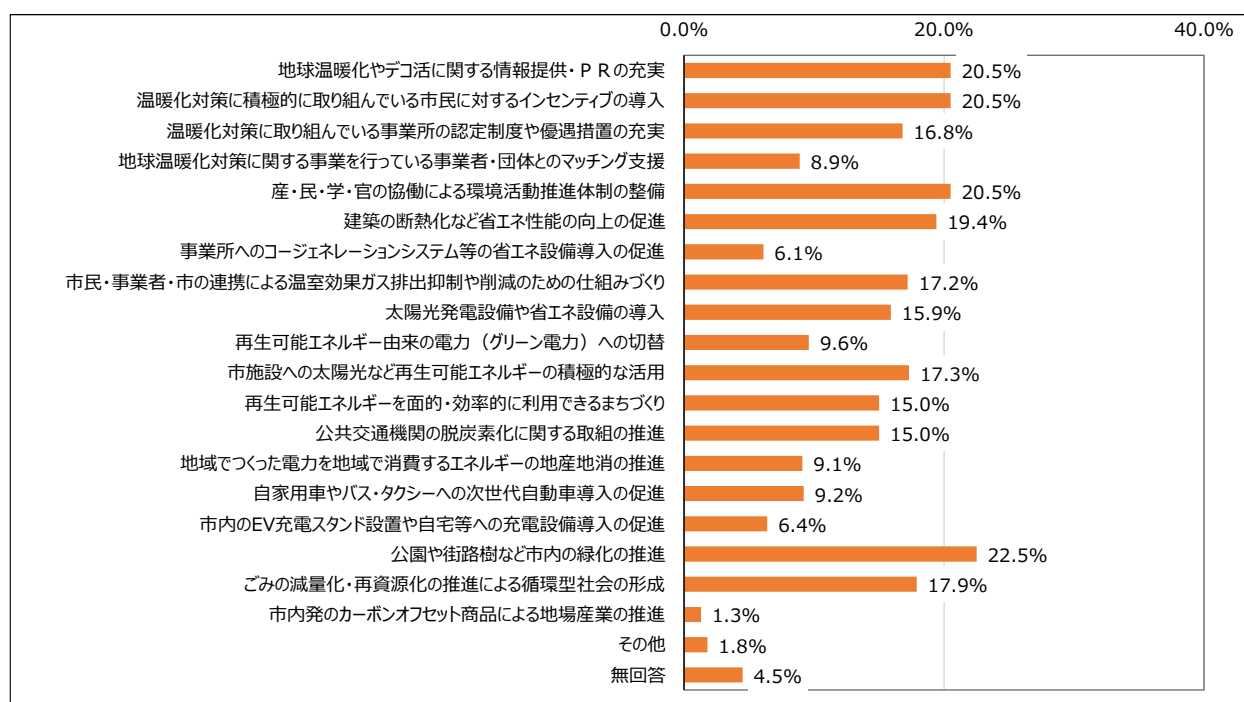
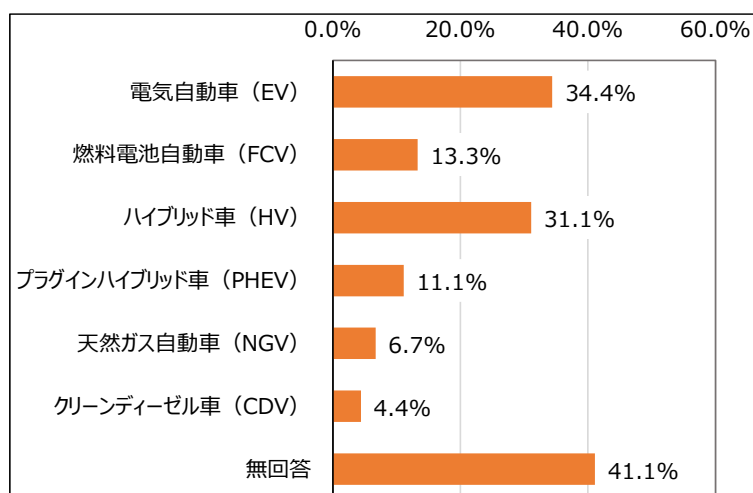


図2-17 上記「自家用車やバス・タクシーの次世代自動車の促進」のうち次世代自動車の種類



「その他」回答内容 ※環境に関連する内容のみを抜粋し、要約した内容を記載しています。

内容
サフ(SAF)のような対策を自動車にも行う
フードロスの削減、農産物の規格外(B 級)品の積極販売
大庭地区のけやき大通りの緑は素晴らしい。ゴールデンウィーク時に歩行者天国のようなイベントをして、上りと下り、半日単位でゴミひろいや雑草を取ったりして、クーポンを配り、屋台で飲食できるなどしたらどうか?
補助金制度改革
波力発電の推進
市民に対して、公共交通機関利用を高めてもらうために市が運賃負担分を補助し、乗車してもらう仕組みをつくり駅付近の渋滞緩和を目指すこと。またそこから各公共交通企業が根強く地域の足として残っていける環境が、今後の温暖化対策含めて重要になってくると考える
観光客に対しても、ターミナル駅から公共交通機関に乗り換えて観光地へ行くパーク・アンド・ライドシステムをしっかりとつくることも重要と考える
ごみ焼却炉の高効率化を推進すること
交通手段の充実、高齢者への補助（横浜市のように） など

市が今後、重点的に取り組むべき事項について聞いたところ、「公園や街路樹など市内の緑化の推進（22.5%）」の回答が最も高く、次いで、「地球温暖化やデコ活に関する情報提供・PRの充実（20.5%）」「温暖化対策に積極的に取り組んでいる市民に対するインセンティブの導入（20.5%）」「産・民・学・官の協働による環境活動推進体制の整備（20.5%）」と続いており、いずれも2割を超えています。

一方、最も低い回答だったのは「市内発のカーボンオフセット商品による地場産業の推進（1.3%）」でした。

また、「自家用車やバス・タクシーへの次世代自動車導入の促進（9.2%）」と回答した人が挙げた次世代自動車としては「電気自動車（EV）」「ハイブリッド車（HV）」の割合が高く、いずれも3割を超えていました。

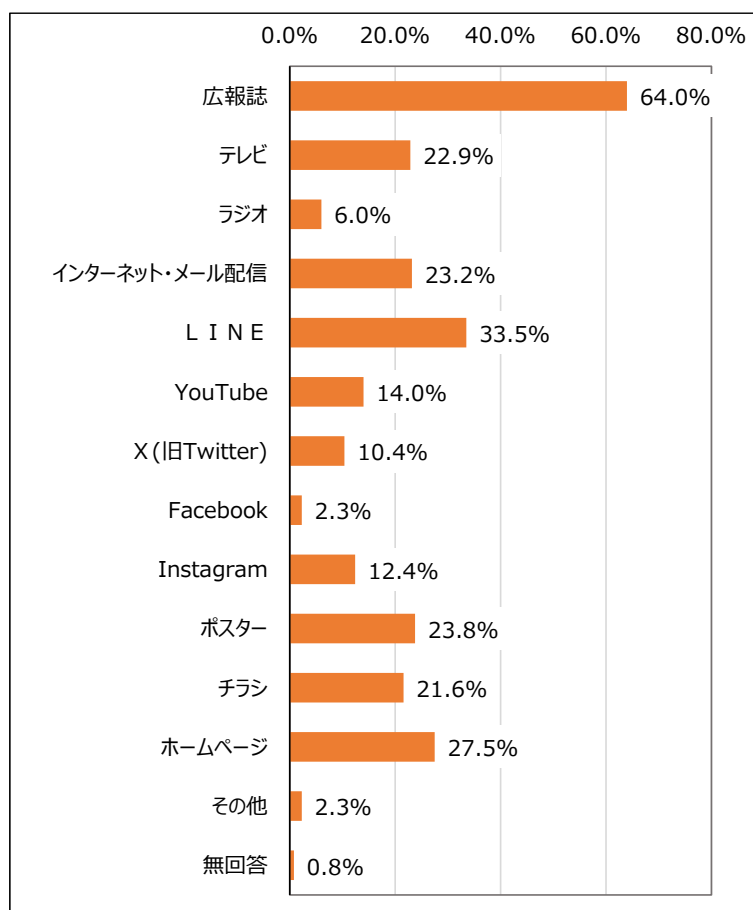
その他の回答では、「動機付けや、学ぶ場、働く世代へのアプローチ」「交通手段の充実」「フードロスの削減、農産物の規格外品の積極販売」「ごみ焼却炉の高効率化」などの意見が挙がっています。

このことから地球温暖化対策だけではなく、多様な観点から取り組みを実施することが期待されていることが伺えます。

2-8 市の情報発信方法

問 10 市からの情報発信についてどの媒体で情報提供を行うとわかりやすいですか。最も当てはまる番号を 3 つまで選んで○で囲んでください。

図 2 - 1 8 市の情報発信方法



「その他」 回答内容

内容
SNS 全搬
小学校のおたよりで配布
地域の回覧板
民間の有力情報誌
藤沢駅に"藤沢環境センター"を改札口からすぐに行けるとところに設置。教育ビデオやチラシ、PR を常時、実施する。(観光センターと併設でもいい)
不動産、ご飯屋の広告
Yahoo ニュースの藤沢市に関するトピックス
職場(会社や病院など)へのお知らせ
SNS での発信を否定するつもりはないが、注意関心を持続させるための本気度を示す、市民全体の参加型イベント週間などを行えないのだろうか?(市内の小中学校とのコラボなども良い)
イベント
TikTok
日々の生活の中で目につくところ、例えばスーパーの入口やバス時刻表のところ、コンビニの窓などにちょこっとおもしろい言葉やキャラクターを添えた広告を貼る。
チラシも捨てられない様な QR コード付で「大切な藤沢市よりお知らせ」
Threads・子育て世代は使っている方が多いと感じている
ホームページをもっと楽しいものにしてほしい
工務店や建設会社への情報提供
自然と目や耳に入る方が良い
SNS や YouTube、ポスターなど多くのターゲットに届ける必要があるため、偏らないように様々なツールを使うことが必要
マイナポータル
アプリ
藤沢市の対策現場を見学できる機会を設ける。ごみ焼却炉、不燃ごみ廃棄の現実を知る機会があれば我々も効果的な対応ができるだろう。もちろん機会の事前周知はお願いしたい など

2-9 自由意見

問 1 1 最後に藤沢市の環境行政へのご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

回答内容 ※環境に関連する内容のみを抜粋し、要約した内容を記載しています。

内容	
自然環境	森の緑をなくしてソーラーパネルを設置するような愚策はやめてほしい。
	樹木の保全、新規設置に多く取り組んでもらいたい。
	植樹祭のようなイベントがあってもいいのではないかな。
	次世代の為に、綺麗な自然を残してあげたい。
	藤沢の南側の江の島などは開発が進んでしまったが、藤沢の北側（遠藤・笹久保・御所見）はまだ自然が残っているため、自然と共生できる持続可能な街づくりを目指してほしい。
	公園等の植木が大きくなり、樹木の伐採が必要だと思う。
	藤沢市は子供(移住者)が増えてきている地域なので、出来るだけ古かったり汚い公園を整備して欲しい。安心して遊ばせられる公園や、広々遊べる自然豊かな公園がもっと沢山欲しい。
資源循環	各家庭で生ゴミ処理器コンポストを普及させると、ごみの量が減るのではないかな。コンポストの購入補助があったら取り組みたい人は多いと思う。家庭菜園を楽しんでいる人も増えているので、処理したものを活用出来る。（藤沢市は電動生ゴミ処理器の補助はある）
	ごみの分別収集の強化、推進。
	ゴミ袋を大きく又は安くしてほしい。
	プラスチックゴミの収集日を増やして欲しい。可燃ごみにプラを入れている人が目立つ。週1ではゴミがたまりすぎる。ペットボトルの回収スタンドを各所に設置して欲しい。
	他市に比べごみの分別が細かく、環境への配慮が感じられる。
	少人数世帯が普通なので、ゴミ袋は10ℓと20ℓに加えて、15ℓのものを作ってほしい。
環境教育	今後とも更なる情報量の増加と選択肢を増やしていただきたい。環境等に関する考えは小さな時からの教育が大切と思う。小学校、中学校等で多くの体験、情報を日常的に教えて欲しい。
	駅近くに藤沢環境センターを設置し、エコ設備の紹介等を行う。又は気軽に入れる場所に設置する。
	エコポイント(paypay)の実施、環境イベント(春、秋)の年2回実施(小田原市ですでにやっている)。ゴミ拾い、清掃・ゴミ処理場の見学。

内容	
交通	高齢化が進むにあたり支援年齢が上がりつつある。公共交通(神奈川中央交通、江ノ電)の脱炭素推進を図り、自動車社会からの脱炭素を目指し、公共交通を利用する推進が必要。
	日常で自転車を使用することが多いが、藤沢駅や江ノ電・モノレール各駅周辺に駐輪場がない。又は空きがない事が多く、結果的に車を選ばざるを得ない事がある。車道も自転車レーンが整備されていない所がほとんどで、法改正もあるため、利用しやすくなることを望む。
	EV、電気自動車を買ったところで距離が走れない上に、スタンド設置が少なすぎるので、そちらを増やすことを最優先にして頂きたい。
	主要道路も道路の凹凸が多くなっている。車の燃費が悪くなるので直してほしい。
	電気自動車の充電スポットの拡充を是非お願いしたい。
	車など、ハード面で排気ガスを出さない仕組みより、渋滞などを起こさない環境整備をして排気ガスを出させない仕組みを作らないといけないと思う。
気候変動	雨水貯留槽やコンポストなどもう少し可愛いものにしてみてもっと利用してもらおう(地味なので)。
	騒音やフン害、夜道の安全のため公園の桜や街路樹が伐採されるのは仕方ない事なのかと思うが、温暖化によるヒートアイランド化した街で日差しや暑さから避ける場所がなくなり熱中症の方が増えていく印象がある。対応をお願いしたい。
	一人暮らしの高齢者が、特に猛暑に日中クーラを使用、又は使用を控えるのを避ける為に、特に目的がなくてもくつろげる施設を提供すると良いかと思う。
	地球温暖化は、深刻な状況にきているので、官民そろって本気で取りくんでほしい。
	藤沢市の地球温暖化対策が多方面に考えられている事を知り、良かった。今後も多方面の対策を希望する。
	地球温暖化等に取り組んでるゼロカーボン推進課があると今回このアンケートが届いて知った。3年が経過してとの事だが、日増に温暖化が進み特に夏場は過酷である。市民がこれだったら出来ると思える事を提案してもらい意識を変えられたらと思う。
	環境行政は粛々と進めて頂いて結構だが、政府のゼロカーボン宣言や温暖化に疑問を持っている。
	日本が温暖化対策しても0.006℃の効果しかないと言われている。補助がつくからとそこに費用を注ぎ次世代に難課題を残すのはいかなものかと感じる。
再エネ・省エネ	ゼロカーボンに向けて、エネルギー大量消費、温室効果ガス大量排出の施設に対しての施策を実施したり、公共交通(路線バスなど)への次世代自動車導入を促進し、これらのことを市民に広く知ってもらうことで、よりよい環境づくりに対する気運が盛り上がるのではないかと考えている。
	EV 充電スタンド(できれば無料)が各所にあると助かる。

内容	
再エネ・省エネ	市が積極的に太陽光や再生可能エネルギーを使用し、それが市民の手本になれば良いと思う。"あたりまえ"になる事が必要。
	マンションなど、築年数のあるマンションに、積極的に省エネとなるサポートが欲しい。
	駅や商業施設、公的機関の節電、特に日中の明るい時の照明を間引くなど、もっと積極的に行うべき。3.11 を過ぎた現在、節電があまりにも疎かになっていると感じている。
	10 数年前に太陽光発電を設置したが、国の買取額が下がり、メリットが感じられなくなった。導入を推進するならば、最後まで面倒を見るべき。
	石名坂のゴミ焼却に火力発電を導入して、インパクトを与えてほしい。地方から徐々に広まってゆくのが常の流れと感じている。または、江ノ島周辺の潮力発電もあって良い。大規模でなくても、周辺地域分の電力を賄える小規模なもので進めてみる事から始めて良いと思う。
	近年、太陽光発電システムを山や空いた土地に作る(売る)市町村が増えているが、藤沢市としては絶対にそういう開発をしない・させないでいただきたい。特に外国資本の企業のソーラーパネル事業は、今後の土地や災害等の問題となることや、元から住んでいる市民への光害等の問題、そして環境保護と逆進性となる恐れがあるため、安易なソーラーパネル事業を認めないでいただきたい。そういったルールづくりも今後必要と考えている。
	太陽光発電は本当に環境に良いのか?太陽光パネルの処分はどうなっているのか?家の屋根に乗せて、もし火災が発生したら消火できるのか?パネルの処分方法も大きな問題を含んでいると思う。(化学品をかなり含んでいるので)
	太陽光パネルは発電が不安定で主に輸入品である。廃棄時の処理対策についても十分に話し合われ、HP 等に記載されているのか? (国産のペロブスカイトには関心がある)
環境美化	藤沢市は観光地もあるため、環境については、観光客に対しても、注意喚起してきれいな藤沢を目指す。
	道でゴミを日常歩きながら拾っている方々を見るが、そうした活動へ通勤、通学中に参加しやすい地域であるとよい。拾ったものをどこかで集めて入れられるとか、ごみを拾って入れるとポイントがつくとか、日常の時間でできることをやりたい。
	ゴミ箱がないのは不便
	街中のゴミが気になる。そのゴミが風や大雨で最終的に川、海へ流れてしまう。残念でしかたない。
	商店街などにゴミ箱を設置して欲しい。(観光地で食べ歩きなどのゴミが多く排出されるにもかかわらず、ゴミ箱が少なくゴミが散乱しているため)
	公園の掃除はマメにしていだけないか?フェンスから出た木は切るなど。明るい公園でない場合、ゴミを捨てる人がいる。
情報共有	藤沢市の LINE アプリを使っており、基本メニューの中に、「補助金」という項目があったら便利だと思う。LINE の登録数をもっと増やしたら良い。

内容	
情報共有	藤沢市自身がどんな対策で、どの程度の効果をあげているか定量的に明らかにして、自分もやらなければという気持ちを高めるように誘導すること。
	LINE やアプリ等を使ってポイント制度などの導入や、クイズなど分かりやすくしていただけると親しみやすい。
	導入した時の還元もしくは税金一部控除してほしい。導入するメリットをわかりやすくしてほしい。
	藤沢市の取組も、自分達が何をしたらいいのかも分からないので、関心がない人でも目に入るようにするべきだと思う。
	知らないことが多いので興味がわくように、知ってもらうことが必要。チラシのポストインが一番よい。ネットは気になる人だけしか調べない。
	費用対効果が見込まれないものは個人も事業所も手を出しにくいと思う。
	藤沢市が環境についてどのようなことをやっているのか分からないので、お知らせなどもっとしても良いと感じる。
	環境行政の推進は、藤沢市が“住みたい街”として、さらに認知を得る大切な取り組みだと思う。
	他の都市と比べると藤沢の環境の取り組みは市民には見えていないような気がする。もっと費用をかけて外注したり様々なアイデアをもらったりする必要があると感じる。藤沢は住みやすいし環境も良いが環境問題に市民の関心が低いような気がしている。
	良い施策だとは思いますが、何かを実施した際にはどういった効果や成果があったのかをわかりやすく広くフィードバックする方法までをセットにしてほしい。社会的に意義があるとわかっている結果が分からないと興味や関心を集めるのは難しいと思う。過去やったことあるなら過去の成果もセットで展開した方が良いのではないかな。
	藤沢は環境を重んじていることを観光客等にもアピールし、藤沢ルール等しっかり守って欲しいものを伝えていくことも大事では。
	FM 湘南ラジオで沢山話して聞いてもらうのもよい。
	2027 年の蛍光ランプ生産禁止に伴う、LED 化の推進 PR をしてほしい。
	高齢者への情報提供は、やはり紙媒体の方がよい。
	YouTube や Facebook、SNS は自分でアクションをおこさないと思いつかないが、ポスターを色々な所に貼れば目に付くと思う。ポスターはあまり興味がないことも目に入ることがあるのでとても有効的だと思う。
	県外より転居してきたが住みやすい市だと思う。今後も環境行政に力を入れていただき市民にも積極的に発信してほしい。
	これからの人達に正確な情報を伝えてほしい。必ずこれをしないとイケないという風に伝えなければ（別に今のままでもいいなど曖昧に伝えと）環境改善は難しいと思う。
	環境ポータルサイトふじさわエコ日和の存在を今回知った。藤沢市の HP から行く方法はないのかと思った。

内容	
情報共有	市民にとってメリットがある、協力したくなるような進め方をお願いしたい。
その他	補助金を全額負担や、市でのローンが組めるようにしてほしい。
	「エコ」「脱炭」「環境」とお題目を付けたものが無批判に評価され予算配分されることに疑問。
	日々の生活が豊かであれば、気持ちにも余裕がでて環境に対しても積極的に考えて行動できるのだろうと思う。環境に対して自分たちの行動がどのように有効なのか、目に見えて実感できることがなかなかできないため、頑張ったりお金をかけることも考えてしまうのではないか。未来に向けて、今見えることのできるような活動があればよい。
	環境改善のための市民会議などあったらぜひ参加したい。
	環境によいことをしたらポイントや何かもらえるキャンペーンがあれば楽しそう。
	市の行政内容が良く見えない。義務化する様な事があっても良いのでは？
	既存のマンションに新しいシステムを導入するのは、かなり大変なことと思われる。古いマンション、既存のマンション、戸建てに少しずつでも環境に良いものを導入できるよう、行政の方で、金銭面や簡単に導入できる方法を考えていただけたらと思う。
	集合住宅居住者には取り組める施策が限られていると感じる。
	取り巻く環境は刻一刻と変化するので、時代を先取りした取組みにも注力をお願いしたい。
	お金に余裕がない家庭への配慮を手厚くして頂きたい。
	地球環境が危機的状況にあることを踏まえ、広く企業の協力や市民(一人一人の市民の連携・協力や町内会など)を巻きこんで環境への取り組みができれば良いと思う。

3 アンケート調査結果（事業者編）

3-1 事業所の概要

問1 貴事業所についてお尋ねします。

図3-1【所在地域】

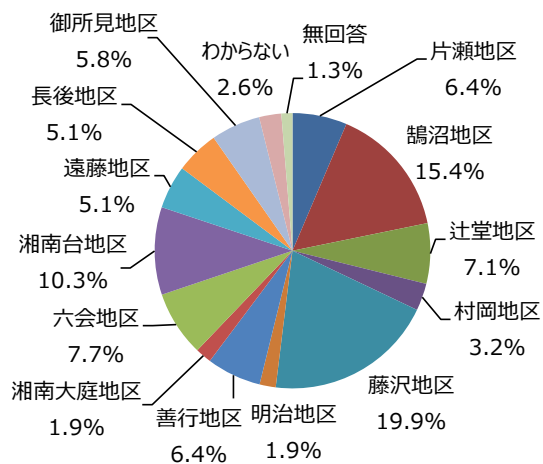


図3-2【業種】

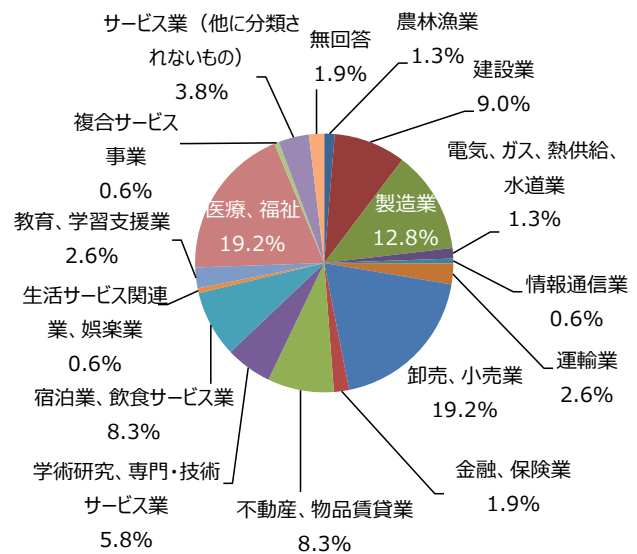


図3-3【従業員規模】

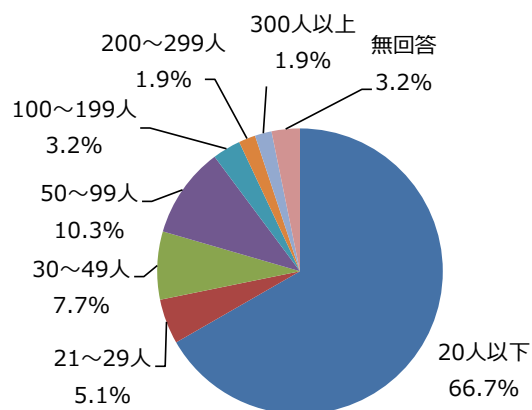
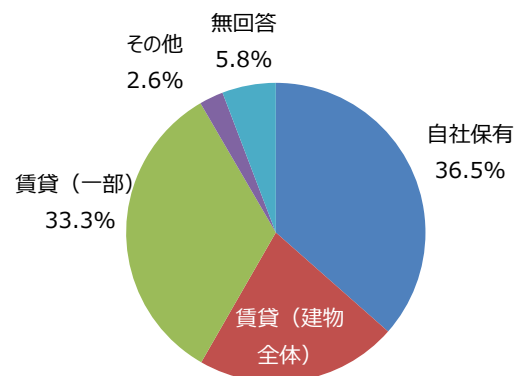


図3-4【事業所の所有形態】



3-2 市の地球温暖化対策に関する重要度・満足度

問2 藤沢市の地球温暖化対策に関する各項目について重要度・現時点の満足度についてお尋ねします。最もあてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。

図3-5 市の地球温暖化対策に関する重要度・満足度

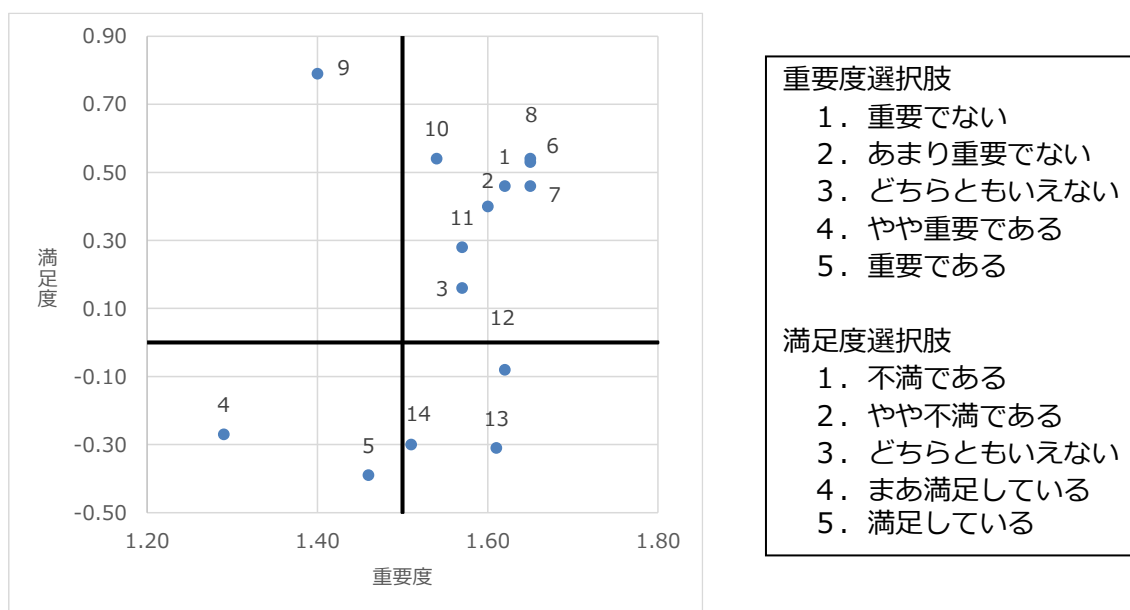


表3-1 市の地球温暖化対策に関する重要度・満足度

番号	項目	重要度	満足度
1	学校や地域、事業所などあらゆる社会の中で、環境教育・環境学習が推進され、環境を意識した行動が広がっている	1.62	0.46
2	より多くの市民・事業者が環境への関心と意識を高く持つことで、さまざまな環境保全活動と環境美化活動が展開されている	1.60	0.40
3	地球温暖化対策について、市民・事業者・行政の力を活かした地域からの行動が進められている	1.57	0.16
4	エネルギーの地産地消を見据えた太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用が行われている	1.29	-0.27
5	環境に優しい都市システムによる脱炭素社会が創造されている	1.46	-0.39
6	公園や緑地など新たに緑が創出され、潤いのある生活環境が確保されている	1.65	0.53
7	豊かな自然環境の保全に向けて、身近な緑が保全・再生されている	1.65	0.46
8	安全・安心な食を身近で確保するための地産地消が実践されている	1.65	0.54
9	エコバッグの活用や、過剰梱包の防止など、プラスチックごみの削減に向けた取組が定着している	1.40	0.79
10	廃棄物の発生抑制及び減量・資源化が推進され、循環型社会が形成されている	1.54	0.54
11	家庭における食品ロスや事業者における食品廃棄物の削減が推進されている	1.57	0.28
12	環境への負荷を低減し、未来へつなげる循環型社会が実現されている	1.62	-0.08
13	市民や事業者を牽引する行政の率先的取組が推進されている	1.61	-0.31
14	地球温暖化対策の取組に民間事業者を誘導する仕組みが実現されている	1.51	-0.30

重要度：重要でない=-2、あまり重要でない=-1、どちらともいえない=0、やや重要である=+1、重要である=+2
満足度：不満である=-2、やや不満である=-1、どちらともいえない=0、まあ満足している=+1、満足している=+2として平均値を算定

【前回調査結果との比較】

・重要度

重要度は前回調査結果^{注)}と比較すると、項目によって増減がありましたが、全ての項目で、重要度は1.29以上と依然として高い状態にあります。

高くなった項目としては「公園や緑地など新たに緑が創出され、潤いのある生活環境が確保されている」「地球温暖化対策の取組に民間事業者を誘導する仕組みが実現されている」がありました。一方低くなった項目には「エネルギーの地産地消を見据えた太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用が行われている」がありました。

・満足度

満足度も重要度と同様に、項目によって増減がありましたが、「環境への負荷を低減し、未来へつなげる循環型社会が実現されている」については、満足度が0.23高くなりました。満足度の低下が大きかったのは「豊かな自然環境の保全に向けて、身近な緑が保全・再生されている」で、前回より0.33低くなっています。

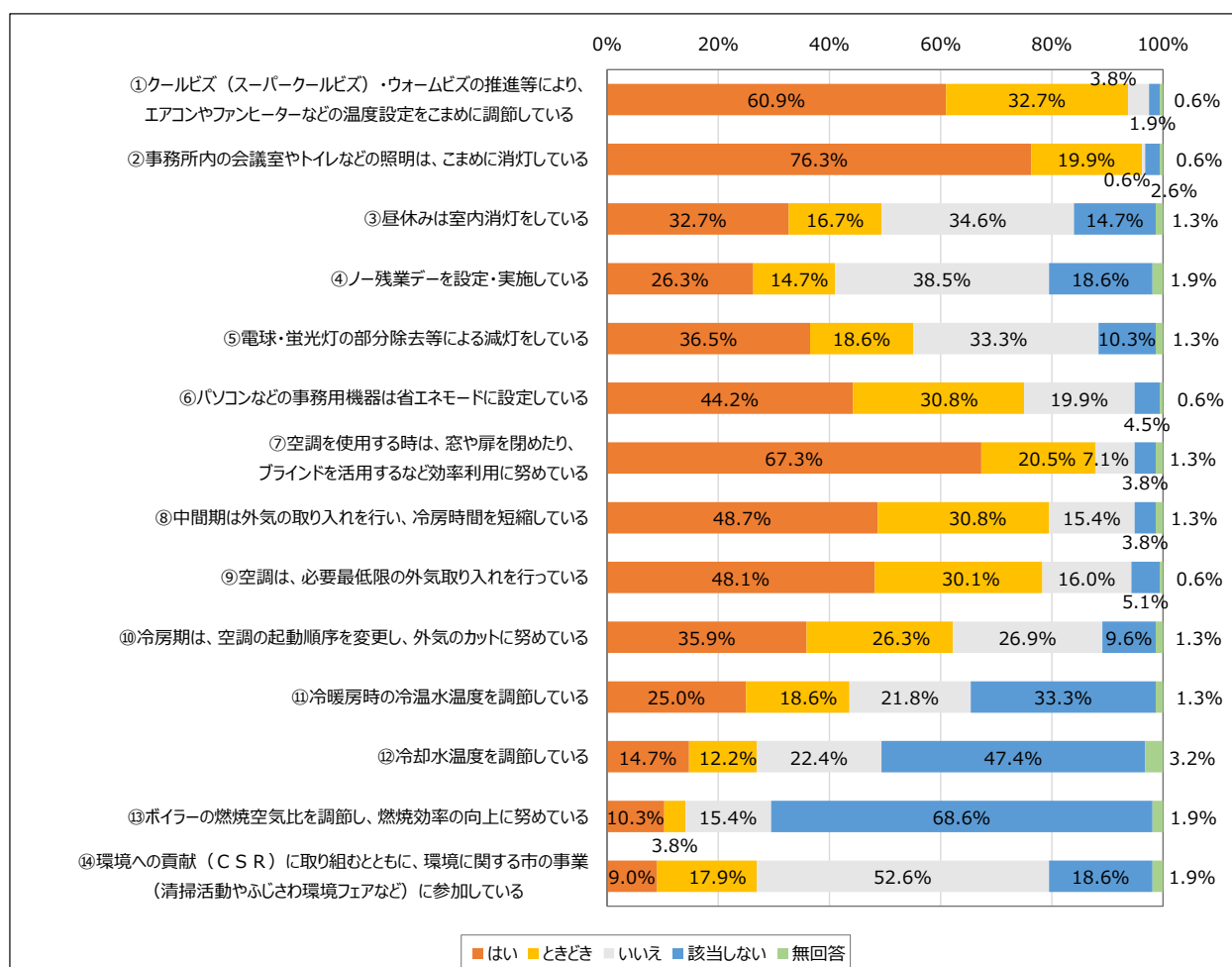
注) 前回調査時には充実希望度として確認している。

番号	項目	重要度		満足度	
		2025年度	2021年度	2025年度	2021年度
1	学校や地域、事業所などあらゆる社会の中で、環境教育・環境学習が推進され、環境を意識した行動が広がっている	1.62	1.54	0.46	0.61
2	より多くの市民・事業者が環境への関心と意識を高く持つことで、さまざまな環境保全活動と環境美化活動が展開されている	1.60	1.53	0.40	0.42
3	地球温暖化対策について、市民・事業者・行政の力を活かした地域からの行動が進められている	1.57	1.58	0.16	0.05
4	エネルギーの地産地消を見据えた太陽光発電等の再生可能エネルギーの活用が行われている	1.29	1.52	-0.27	-0.23
5	環境に優しい都市システムによる脱炭素社会が創造されている	1.46	1.49	-0.39	-0.31
6	公園や緑地など新たに緑が創出され、潤いのある生活環境が確保されている	1.65	1.54	0.53	0.78
7	豊かな自然環境の保全に向けて、身近な緑が保全・再生されている	1.65	1.63	0.46	0.79
8	安全・安心な食を身近で確保するための地産地消が実践されている	1.65	1.59	0.54	0.65
9	エコバッグの活用や、過剰梱包の防止など、プラスチックごみの削減に向けた取組が定着している	1.40	1.46	0.79	0.74
10	廃棄物の発生抑制及び減量・資源化が推進され、循環型社会が形成されている	1.54	1.62	0.54	0.69
11	家庭における食品ロスや事業者における食品廃棄物の削減が推進されている	1.57	1.60	0.28	0.24
12	環境への負荷を低減し、未来へつなげる循環型社会が実現されている	1.62	1.57	-0.08	-0.31
13	市民や事業者を牽引する行政の率先取組が推進されている	1.61	1.56	-0.31	-0.40
14	地球温暖化対策の取組に民間事業者を誘導する仕組みが実現されている	1.51	1.42	-0.30	-0.44

3-3 省エネ対策の実施状況

問3 節電や省エネ対策として取り組んでいる次の各行動についてお尋ねします。
最もあてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。該当する機器を保有していない等の場合は、「該当しない」に○をつけてください。

図3-6 節電や省エネ対策の実施状況



【前回調査結果との比較】

節電や省エネ対策の取組状況は前回調査と比較して、全体的高くなっている傾向にあります。実施率が9割を超える項目として、「事務所内の会議室やトイレなどの照明は、こまめに消灯している（96%）」「クールビズ（スーパークールビズ）・ウォームビズの推進等により、エアコンやファンヒーターなどの温度設定をこまめに調節している（94%）」があり、これらの項目はいずれも前回調査より実施率が増加しています。

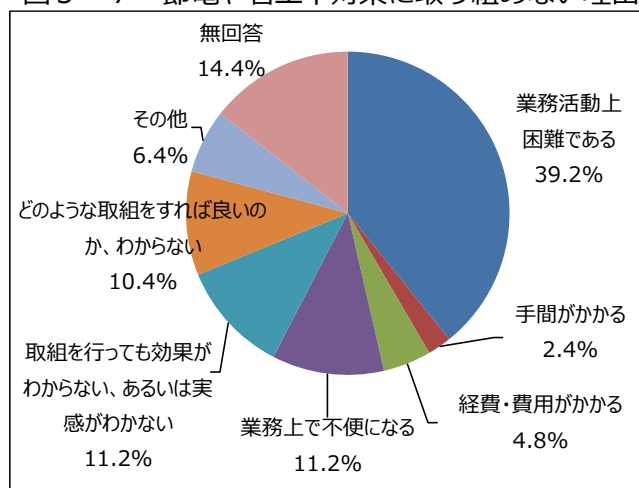
実施率が2割を下回る項目としては「ボイラーの燃焼空気比を調節し、燃焼効率の向上に努めている（14%）」があり、前回調査と比較して実施率も低くなりました。

番号	項目	「ときどき」または「はい」の割合	
		2025年度	2021年度
①	クールビズ（スーパークールビズ）・ウォームビズの推進等により、エアコンやファンヒーターなどの温度設定をこまめに調節している	94%	92%
②	事務所内の会議室やトイレなどの照明は、こまめに消灯している	96%	93%
③	昼休みは室内消灯をしている	49%	58%
④	ノー残業デーを設定・実施している	41%	40%
⑤	電球・蛍光灯の部分除去等による減灯をしている	55%	56%
⑥	パソコンなどの事務用機器は省エネモードに設定している	75%	73%
⑦	空調を使用する時は、窓や扉を閉めたり、ブラインドを活用するなど効率利用に努めている	88%	81%
⑧	中間期は外気の取り入れを行い、冷房時間を短縮している	80%	80%
⑨	空調は、必要最低限の外気取り入れを行っている	78%	85%
⑩	冷房期は、空調の起動順序を変更し、外気のカットに努めている	62%	58%
⑪	冷暖房時の冷温水温度を調節している	44%	45%
⑫	冷却水温度を調節している	27%	27%
⑬	ボイラーの燃焼空気比を調節し、燃焼効率の向上に努めている	14%	15%
⑭	環境への貢献（CSR）に取り組むとともに、環境に関する市の事業（清掃活動やふじさわ環境フェアなど）に参加している	27%	19%

※2025年度の結果は小数点以下を四捨五入している。

問4 問3で「いいえ」と回答した項目が1つ以上あった方にお尋ねします。取り組めていない理由について、最もあてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。

図3-7 節電や省エネ対策に取り組めない理由



「その他」回答内容

内容
LED 照明へ切替したため
昼休みは交代でとっているので消灯はしていない
もともと残業がほぼない
水の使用がない
ビルのため対応不可
意識がなかった
CSR について、がよく理解できない など

【前回調査結果との比較】

節電や省エネ対策に取り組めていない理由で最も割合が高かったのは、前回調査と同様「業務活動上困難である（39.2%）」でした。ただしこの項目は前回と比較すると、回答割合が低下しています。

回答割合の増加が大きかったのは「取組を行っても効果がわからない、あるいは実感がわからない（11%）」で前回より4%高くなっています。

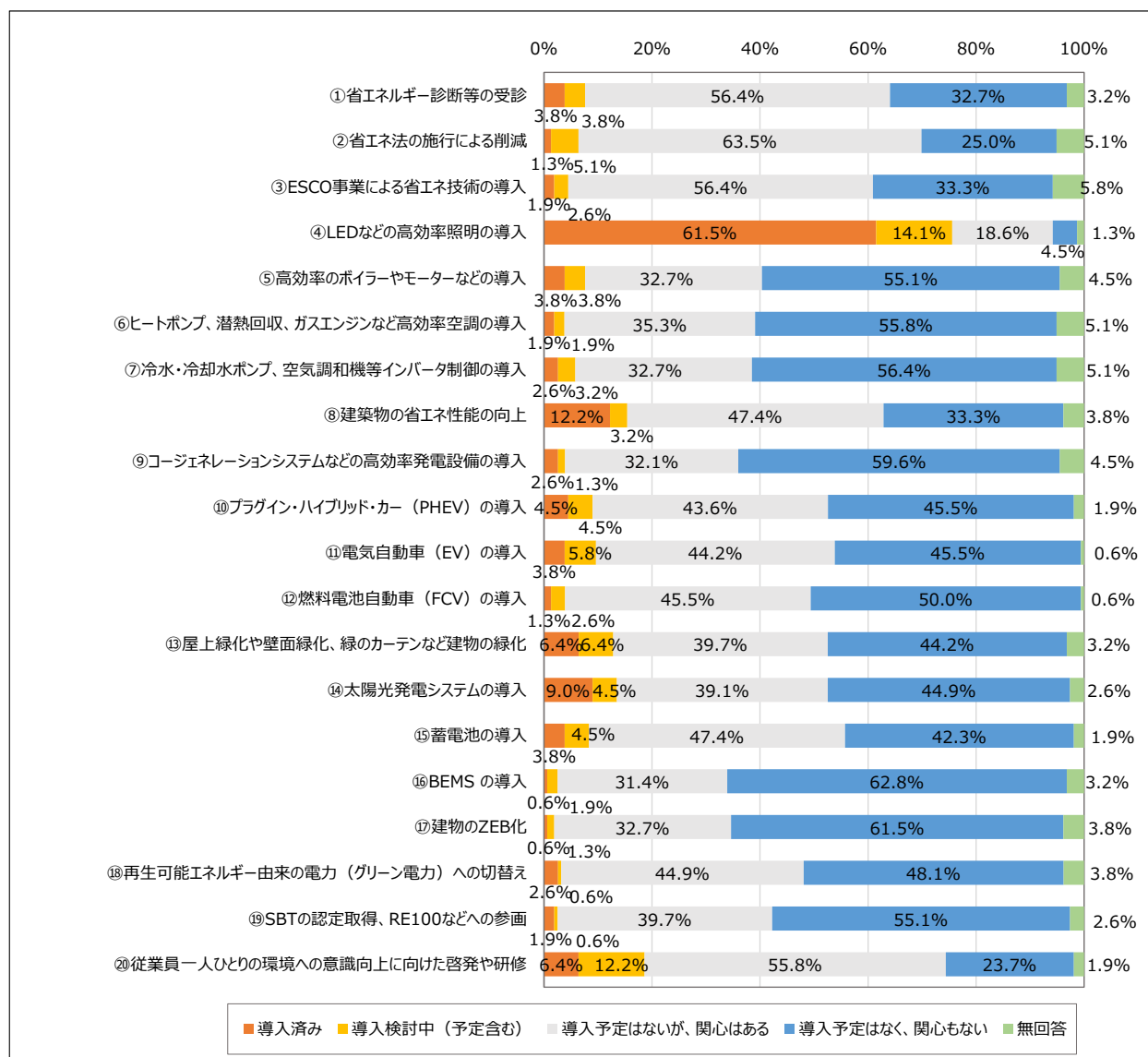
番号	項目	回答割合	
		2025年度	2021年度
1	業務活動上困難である	39%	43%
2	手間がかかる	2%	3%
3	経費・費用がかかる	5%	3%
4	業務上で不便になる	11%	14%
5	取組を行っても効果がわからない、あるいは実感がわからない	11%	6%
6	どのような取組をすれば良いのか、わからない	10%	9%
7	その他	6%	10%
8	無回答	14%	12%

※2025年度の結果は小数点以下を四捨五入している。

3-4 省エネ・再エネ設備の導入状況

問5 省エネ設備や再生可能エネルギーの導入状況についてお尋ねします。最もあてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。

図3-8 省エネ設備・再生可能エネルギーの導入状況



【前回調査結果との比較】

省エネ設備や再生可能エネルギーの導入状況は前回調査と比較して、項目によって増減がありました。最も導入済みの割合が高いのは前回と同様に「LED など高効率照明の導入（62%）」でしたが、前回より2%低くなりました。増加の割合が大きかったのは「屋上緑化や壁面緑化、緑のカーテンなど建物の緑化（6%）」で前回より5%高くなりました。

一方5%以上回答割合が低下したものとして、「省エネ法の施行による削減（1%）」「従業員一人ひとりの環境への意識向上に向けた啓発や研修（6%）」がありました。

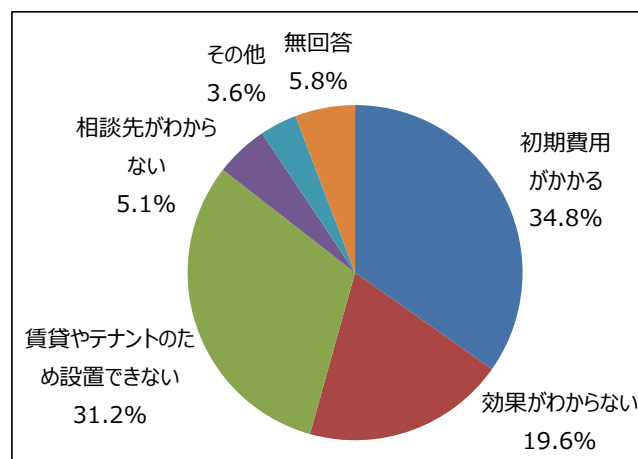
今回新たに設けた項目については、「省エネルギー診断等の受診（4%）」「プラグイン・ハイブリッド・カー（PHEV）の導入（5%）」「蓄電池の導入（4%）」「再生可能エネルギー由来の電力（グリーン電力）への切替え（3%）」「SBTの認定取得、RE100などへの参画（2%）」の結果でした。

号	項目	「導入済み」の割合	
		2025年度	2021年度
①	省エネルギー診断等の受診	4%	-
②	省エネ法の施行による削減	1%	6%
③	ESCO 事業による省エネ技術の導入	2%	2%
④	LED などの高効率照明の導入	62%	64%
⑤	高効率のボイラーやモーターなどの導入	4%	4%
⑥	ヒートポンプ、潜熱回収、ガスエンジンなど高効率空調の導入	2%	5%
⑦	冷水・冷却水ポンプ、空気調和機等インバータ制御の導入	3%	6%
⑧	建築物の省エネ性能の向上	12%	8%
⑨	コージェネレーションシステムなどの高効率発電設備の導入	3%	1%
⑩	プラグイン・ハイブリッド・カー（PHEV）の導入	5%	-
⑪	電気自動車（EV）の導入	4%	1%
⑫	燃料電池自動車（FCV）の導入	1%	1%
⑬	屋上緑化や壁面緑化、緑のカーテンなど建物の緑化	6%	1%
⑭	太陽光発電システムの導入	9%	8%
⑮	蓄電池の導入	4%	-
⑯	BEMS の導入	1%	0%
⑰	建物の ZEB 化	1%	1%
⑱	再生可能エネルギー由来の電力（グリーン電力）への切替え	3%	-
⑲	SBT の認定取得、RE100 などへの参画	2%	-
⑳	従業員一人ひとりの環境への意識向上に向けた啓発や研修	6%	11%

※2025 年度の結果は小数点以下を四捨五入している。

問6 問5で「導入予定はないが、関心はある」と回答した項目が1つ以上あった方にお尋ねします。取り組めていない理由について、最もあてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。

図3-9 省エネ設備・再生可能エネルギー導入に取り組めない理由



「その他」回答内容

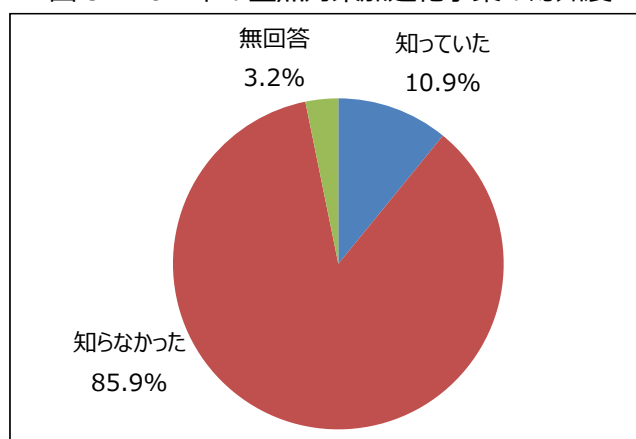
内容
SDGS に関して関心はあるが、そもそも BEMS だったり ZEB 化など、知り得ない事だらけである
弊社の電力量をまかなえるのか疑問
必要ない
担当部署がない
施設老朽化のため。また自動車を使用していない
レジ袋有料化でどの位貢献出来たかいささか不透明で、エコバッグ利用と言いつつもレジ袋は必要
太陽光パネルは、メンテナンス費用が必要で必ずしも有効ではない。弊社には大小様々な発電機があるため太陽光発電は必要無いのが現状。災害時の蓄電池やポータブル電源などは必要と思われ弊社でも複数台所有している

3-5 市の重点対策加速化事業の認知度

問7 藤沢市が国の重点対策加速化事業に採択されたことを知っていましたか。あてはまる番号を1つ選んで○で囲んでください。

また、地球温暖化対策に関する設備補助をより一層市民や事業者を活用してもらうためにはどうしたらよいか、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

図3-10 市の重点対策加速化事業の認知度



「活用してもらうための意見」回答内容

内容
まず、市内の小中学校へ、設備補助の活用推進のためのPR用CMを動画で作ってもらい、SNSで拡散
すでに完了(着工)したものでも補助金対象とする(1年以内であるなどの制限)企業は計画的に実施するので交付決定まで待てない。
実際毎年自然災害等起きているので、今出来る事をホームページ、ネット等に動画等活動してもらう。
情報をもっと目に付く様に発信して欲しい。
学校教育への重点的取組、温暖化対策への必要性をアピールし具体的施策へつなげる、つなげ易さの説明
「できること」「できないこと」を理解している職員が必要だと思う。特にできないことを知らないと最悪の事態を招く可能性有
R134の交通量を減らして欲しい。
目にみえていないことを、説明することは難しい。
マンションなどでも対応できる設備などの紹介
事業者が必要とし、活用(導入)したいと思える補助制度を、必要十分な準備期間をもって実施するべき。

内容
補助金を活用し、導入した例などを分かりやすく発信、周知する。
各企業、商店が加入している団体等より周知してもらう
知られていない情報が多いので、情報案内を強化していくこと。
導入方法や事例など勉強会の開催

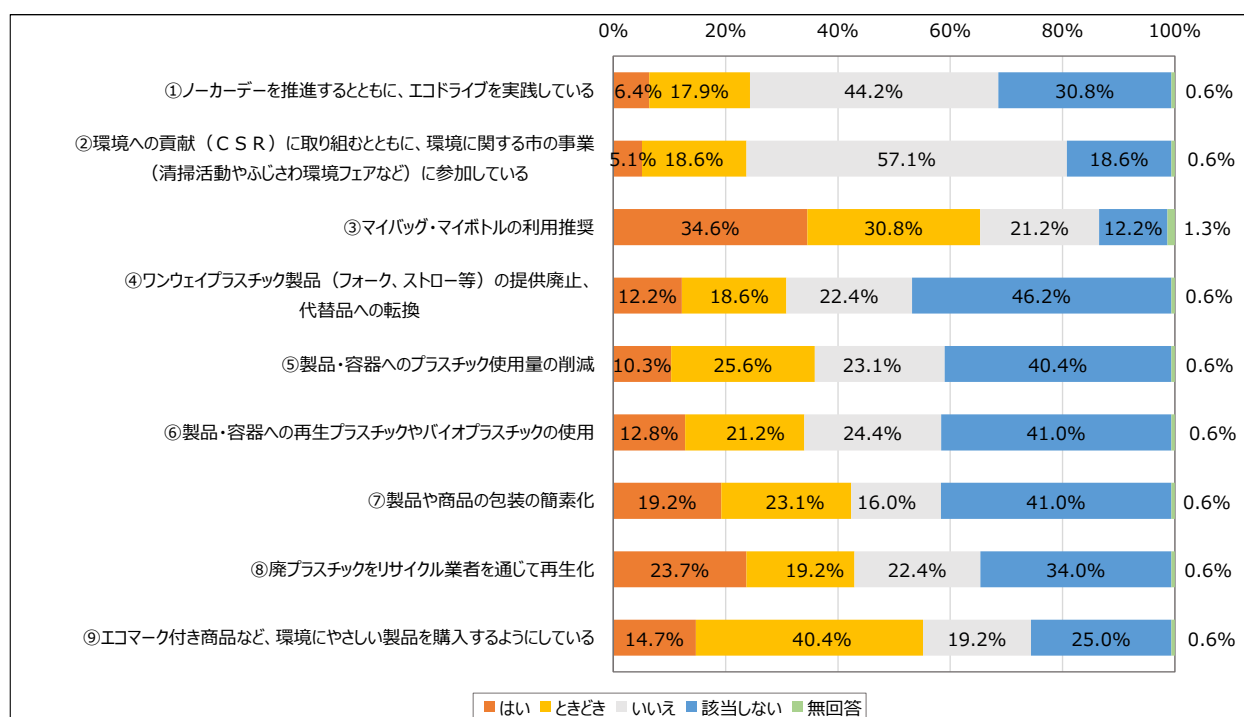
市が国の重点対策加速化事業に採択されたことを「知っていた」と回答した人は全体の10.9%で、市民での「知っていた」の回答数よりは高くなりましたが「知らなかった」と回答した人85.9%よりは大幅に少ない結果となりました。市の事業について、認知が進んでいない状況となっていることが伺えます。

地球温暖化対策に関する設備補助を、より一層市民や事業者を活用してもらうための意見としては、「学校と連携したPR」「SNSやHP、ネットでの配信」といった情報発信を推進するという内容に加え、「完了したのもも補助対象とする（補助対象の拡大）」「人材育成」「マンションでも対応可能な設備の紹介」といった意見も寄せられており、補助制度の見直しや設備情報の提供などの要望があることが伺えます。

3-6 環境にやさしい都市システム構築や循環型社会形成について

問 8 環境にやさしい都市システムの構築や循環型社会の形成につながる次の各行動についてお尋ねします。最もあてはまる番号を 1 つ選んで○で囲んでください。該当する機器を保有していない等の場合は、「該当しない」に○をつけてください。

図 3 - 1 1 環境にやさしい都市システム構築や循環型社会形成に関する実施状況



【前回調査結果との比較】

環境にやさしい都市システムの構築や循環型社会の形成に関する行動の実施状況は、前回調査と比較して、「ノーカーデーを推進するとともに、エコドライブを実践している（24%）」「環境への貢献（CSR）に取り組むとともに、環境に関する市の事業（清掃活動やふじさわ環境フェアなど）に参加している（24%）」の実施率は高くなりました。一方「エコマーク付き商品など、環境にやさしい製品を購入するようにしている（55%）」の実施率は低くなっています。

今回新たに設けた項目の中では、「マイバッグ・マイボトルの利用推奨（65%）」の実施率が最も高くなりました。また「製品や商品の包装の簡素化（42%）」「廃プラスチックをリサイクル業者を通じて再生化（43%）」についても、4割以上の割合で実施されていることが分かりました。

番号	項目	「ときどき」または「はい」の割合	
		2025年度	2021年度
環境にやさしい都市システムの構築に関する行動			
①	ノーカーデーを推進するとともに、エコドライブを実践している	24%	18%
循環型社会の形成に関する行動			
②	環境への貢献（ＣＳＲ）に取り組むとともに、環境に関する市の事業（清掃活動やふじさわ環境フェアなど）に参加している	24%	19%
③	マイバッグ・マイボトルの利用推奨 ※「対顧客」「対従業員」いずれのことでも可	65%	－
④	ワンウェイプラスチック製品（フォーク、ストロー等）の提供廃止、代替品への転換	31%	－
⑤	製品・容器へのプラスチック使用量の削減	36%	－
⑥	製品・容器への再生プラスチックやバイオプラスチックの使用	34%	－
⑦	製品や商品の包装の簡素化	42%	－
⑧	廃プラスチックをリサイクル業者を通じて再生化	43%	－
⑨	エコマーク付き商品など、環境にやさしい製品を購入するようにしている	55%	63%

※2025年度の結果は小数点以下を四捨五入している。

3-7 市が今後、重点的に取り組むべき事項

問9 市民や事業者の温暖化対策への取組を促進するために、藤沢市が今後、重点的に取り組むべき事項についてお尋ねします。あてはまる番号を3つまで選んで○で囲んでください。

図3-12 市が今後、重点的に取り組むべき事項

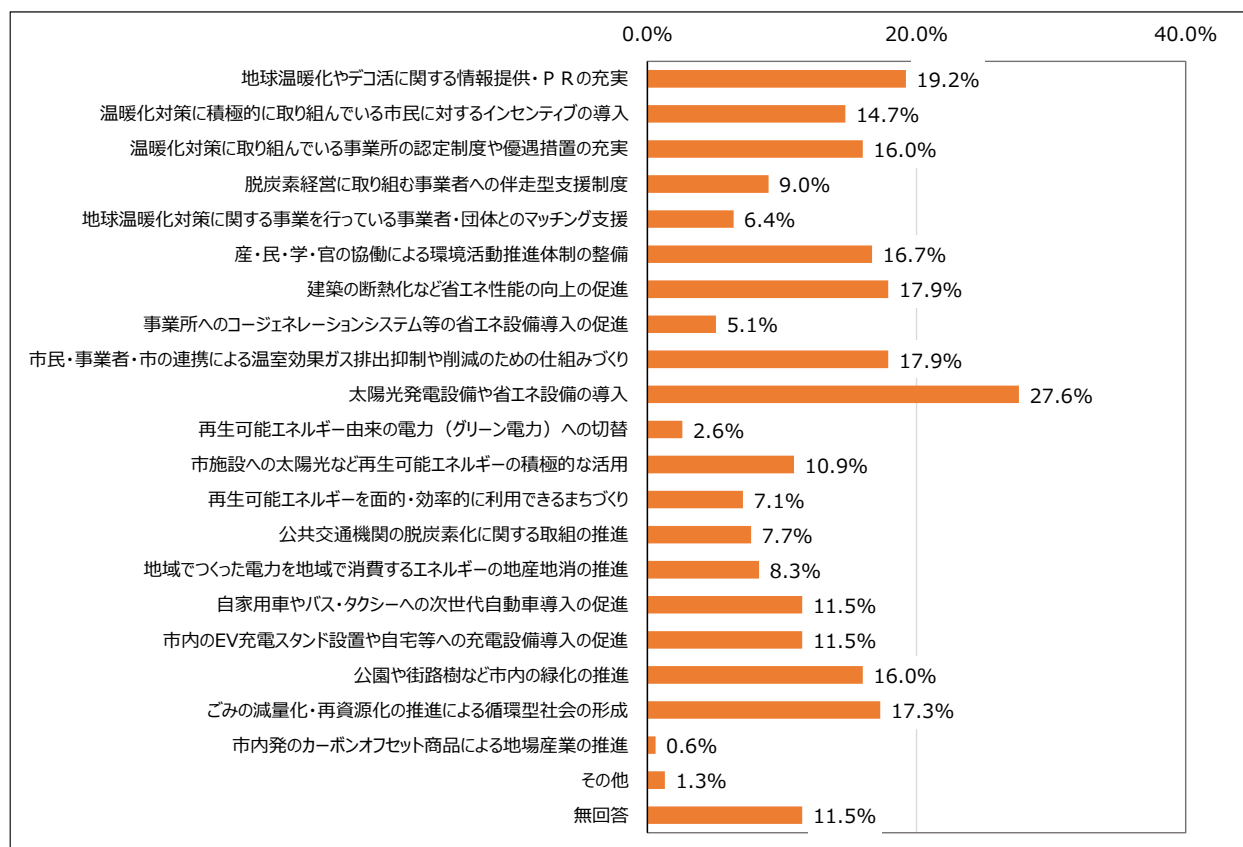
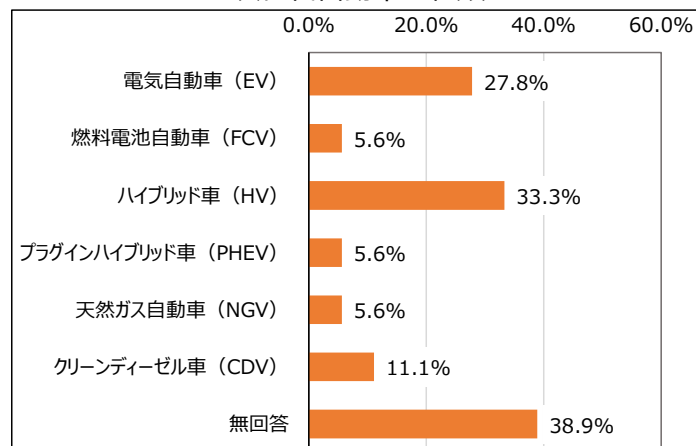


図3-13 上記「自家用車やバス・タクシーの次世代自動車の促進」のうち次世代自動車の種類



「その他」回答内容

内容
全体的に補助金が少なく、受けるまでの手間が多い。
マイカーではなく、公共交通利用の促進。公共交通事業者への補助金給付

市が今後、重点的に取り組むべき事項について聞いたところ、「太陽光発電設備や省エネ設備の導入（27.6%）」の回答が最も高く、次いで、「地球温暖化やデコ活に関する情報提供・PRの充実（19.2%）」「建築の断熱化など省エネ性能の向上の促進（17.9%）」「市民・事業者・市の連携による温室効果ガス排出抑制や削減のための仕組みづくり（17.9%）」と続いており、ハード・ソフトの両面での取組みが期待されていることが分かりました。

一方、最も低い回答だったのは「市内発のカーボンオフセット商品による地場産業の推進（0.6%）」でした。

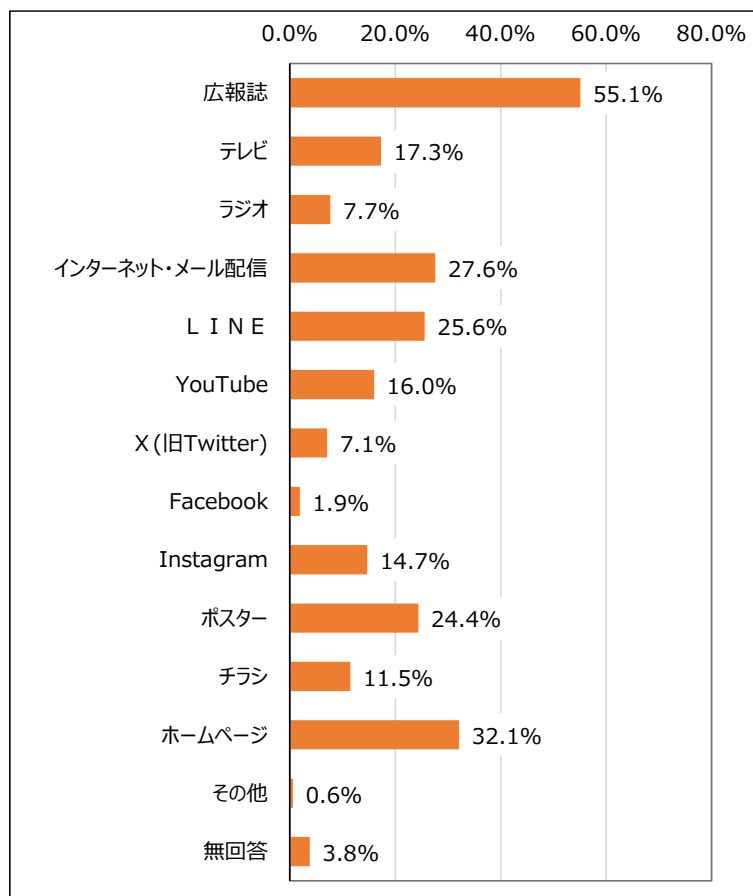
また、「自家用車やバス・タクシーへの次世代自動車導入の促進（11.5%）」と回答した人が挙げた次世代自動車としては「電気自動車（EV）」「ハイブリッド車（HV）」の割合が高く、いずれも約3割程度でした。

その他の回答では、「補助金が少なく、手間が多い」「マイカーではなく、公共交通利用の促進」「公共交通事業者への補助金給付」などの意見が挙がっています。

3-8 市の情報発信方法

問10 市からの情報発信についてどの媒体で情報提供を行うとわかりやすいですか。最も当てはまる番号を3つまで選んで○で囲んでください。

図3-14 市の情報発信方法



「その他」回答内容

内容
今の時代紙はムダである。

3-9 自由意見

問 1 1 最後に藤沢市の環境行政へのご意見がございましたら、ご自由にお書きください。

回答内容 ※環境に関連する内容のみを抜粋し、要約した内容を記載しています。

内容	
協働	藤沢市は、とても良い環境の下生活出来ていると思う。今後、更により良い環境にしてゆく為の活動に積極的な参加を考えている。
交通	事業者向け次世代自動車導入の支援を拡充してほしい。行政の車輛だけが促進されても事実上の効果は限定的であり、不十分かと思う。
資源循環	事業所内の緑地を剪定する際に出たものを無料で回収してもらいたい。
環境美化	ごみ箱の設置
情報共有	今回アンケートを記入して知る用語等が多々あった。身近な例を挙げる等市民への周知が大事だと思う。
	知らない事が多いように感じるため、情報を発信の強化をして頂きたい。
その他	一部の業者による悪質な事業を摘発してほしい。
	他の都市と比べると一足遅れているように感じる。藤沢市は大都市の一角だと思うため、一層取組を進めてほしい。
	全ての設備を同時購入しなくてもよい補助があってもよいと思う。